

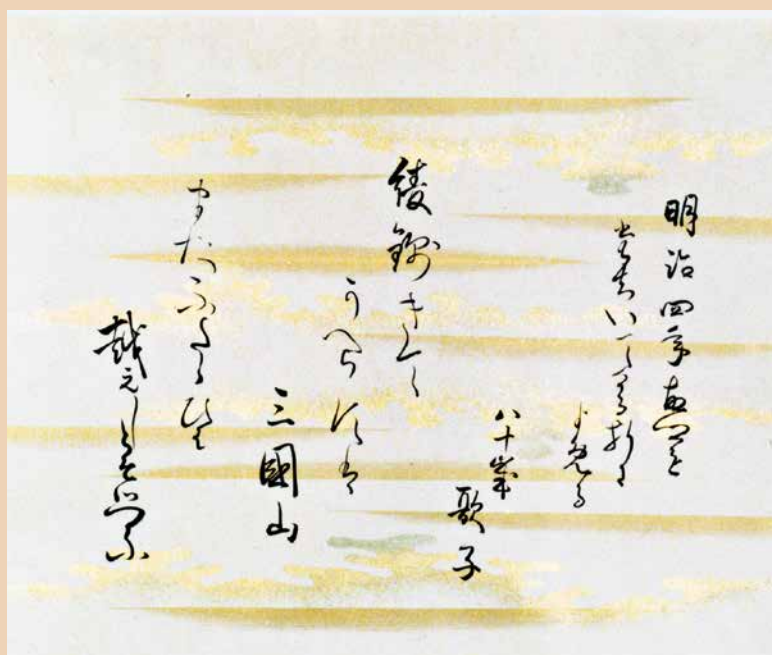
実践桜会行事日程

平成30年

- 4/初旬 「那与竹」第81号発行
- 5/20(日) 定時総会・懇親会
(於:セルリアンタワー東急ホテル)
- 6/23(土) 実践キャリアネット総会・講演会
- 8/9(木)～17(金) 実践桜会会館休館
- 9/29(土) 秋季運営委員会(於:実践桜会会館)
第1回実践桜会奨学生・
国際交流基金奨学生交流会
山上卓夫氏講演会
- 10/初旬 「なよたけ情報版」第24号発行
- 10/6(土) 学祖祭(於:実践桜会会館)
- 10/13(土)14(日) 大学・短期大学部「常磐祭」
- 10/14(日) ホームカミングデー(渋谷)
桜会賞授与
- 10/27(土)28(日) 実践桜会バザー(於:中・高ときわ祭)
- 11/3(土)4(日) 大学・短期大学部「常磐祭」(日野)
桜会賞授与
- 11/17(土) 実践キャリアネット第1回セミナー開催
- 12/27(木)～1/6(日) 実践桜会会館冬季休館

平成31年

- 1/13(日) 初春歌舞伎観劇会(於:国立劇場)
- 1/14(月) 祝・成人の会(於:桃夭館)
- 1/19(土) 実践キャリアネット第2回セミナー開催
- 未定 実践キャリアネット卒業生と
在校生の交流会(予定)
- 4/初旬 「那与竹」第82号発行
- 5/19(日) 定時総会・懇親会
(於:セルリアンタワー東急ホテル)



下田歌子直筆色紙
「故郷をたちける折によめる」
実践女子大学図書館所蔵資料



下田歌子 顕彰碑(岩村)
綾錦着て帰らずば三国山
またふたたびは越えじとぞ思ふ

花びらは散っても 花は散らない



実践女子学園理事長
井原 徹

花びらは散っても花は散らない。形は滅びても、人は死なぬ。

金子大栄（かねこ だいえい 1881-1916 浄土真宗・僧）の言葉である。

私共は神仏が存在するかが故に神仏を信じるのではない。私どもが神仏を信じるが故に、私共に対して神仏が存在するのである。

清沢満之（きよざわ まんし 1863-1903 哲学者）の言葉である。

金子大栄の言葉は、「花びらは、目で見ることができし、その花びらという「物体」は散る。でも、桜が咲いていたという記憶（見たこと）は、花びらが散った後も記憶や心に残っている」と理解できる。般若心経の色即是空・空即是色である。「あってなく・なくてある」である。

清沢満之の言葉は、なるほどそのとおりだと感服するしかない。イエスキリストも佛陀もマホメットも誰も会ったことがないけれども、神として仰ぐ。それはその教えを信じるから、その教えが救いになるから信じるのであり、見たこともないから信じないということではない。百聞は一見にしかず（Seeing Believing）の逆である。

事実（現実・おこったこと・あったこと）は変えることはできない。しかしながら、それらを頭でどうとらえるか・位置付けるか、心でどう捉えるかは、人によって千差万別である。

ややこじつけ的になるが、「母校」という言葉がある。我々大学にいる者は、大学を卒業した者はそこを母校だと思ってくれていると、勘違いしている。母校を「母なる学校」と意味づければ、母なると親しみを持って、

あるいは好感を持っている卒業生は「私の母校は」という言葉を使うであろう。しかし、良い思い出やあまり好ましく思っていない卒業生は「私の卒業した大学は」と言うに違いない。

私たち今大学にいる教職員や役員は、あなたはこの大学を卒業したのだから、この大学は母校なのです、母校と言いなさい、などと言えるであろうか。金子の言うように卒業したという事実は発生したし、卒業したことが記憶から消えることはない。卒業したということが永久に残ることは間違いないことである。

しかし、卒業生にとっては（好感を持って）卒業した大学を母校と思うから（自分にとって良い大学だったと信じるから）、その大学が母校になるのである。私たち大学人はその点を間違えてはいけないと思う。多くの、できれば全員から母校と思ってくれる大学にどうしたらなるかを、真剣に考えなければならない。私たちは、母校なんて言いたくないという卒業生を一人も出さない、そんな覚悟を持つべきである。大学経営者は目標として「学生のための大学にする」と、多くの人が言う。では、学生のための大学とは、どういう大学を言うのか、明確な説明をできる人はほとんどいない。どういう状況になったらそういえるのか。答えは簡単ではないが、その道筋だけは考えて置く必要があると思う。

私は、人が高等教育を施す目的は、マズローの人間の欲求5段階説の最上位に位置する欲求である「自己実現」を、入学者に可能にする、または、自己実現のための方策を学び、あるいはその核を在学中に会得することだと考えている。明確な欲求をもって入学してくる者には、それを満たす環境を提供しなければならないし、自己実現欲求が不明確あるいは学修意欲すら持っていない者には、それを持ってもらうよう指導や教育を提供しなければならない。本来の高等教育の役割であろうとなかろうと、それが妥協だと言われようと言われまいと、である。

金子大栄の言葉でいえば、大学で学ぶという出来事は消えても、大学で学んだことは、記憶・思い出として残る。そして、清沢満之の言葉でいえば、卒業生にとって、最初から母校があるわけではない。自分が学んだ大学を母校と信じるから、母校が存在するのだと、私たち大学関係者は、肝に銘じなければならない。

自分がその母校で学んだことが、今の自分を創ってくれていると確信してもらえる大学にすべく、努力していきたいと思う。

（いはら とおる）

熱っぽく語る



実践女子大学・
実践女子大学短期大学部 副学長
難波 雅紀

大学で教鞭を執るようになってから久しいが、私には、忘れることができない大学院時代の体験がある。それは、今時の学生ならばアカデミック・ハラスメントだと言うかも知れないが、SNSなど影も形もなく、固定電話が最も手早い通信手段だった頃の出来事だから、それほど奇抜な話でもない。

私の指導教授だった先生の場合、授業が終わると研究室に戻っての延長戦がよくあった。とにかく先生には、話し足りないことがたくさんありだったのだ。話は授業の内容から周縁の事柄へと広範囲に及んでいく。話題が連鎖して、チェーンのように延びていくのだ。話は研究室でも終わらず、先生行きつけのトンカツ屋まで続くこともあった。そういう日は要注意だった。私はトンカツ屋でお暇し、電車で揺られて帰宅するのだが、玄関に入ってしばらくすると、計ったように電話のベルが鳴る。そう、いよいよ、先生からの長電話が始まるのだった。

受話器の向こうから「あのね、さっきのことなんだけど」という声が聞こえてくる。トンカツ屋で終わった話の再開だ。こうして始まった電話での講義は、たっぷり2時間は続いていく。この長電話こそ、今が旬の事後学習だと言ってもいい。それは、授業に始まり、研究室を経てトンカツ屋で終わった長大な話の復習なのだ。時折、「君、わかるかな」と確認が入ると、漫然と聞いているのを見透かされたようで、ドキッとさせられる。そうすると、呪文をかけられたように話に引き込まれてしまうから不思議ではないか。

その昔、アメリカ北東部にイギリスから移住したピューリタンたちは、キリスト教的ユートピアを作ろうとした熱烈な宗教家だった。だから、ピューリタンの牧師は、説教の達人でなければならなかった。ただし、薫り高い衛学的な語り口ではなく、誰にでも分かるように易しく教え諭せるのが達人だった。そのことで私

の先生がお好きだったのが、達人である牧師の説教は、砂時計が2度ひっくり返っても終わらなかったというエピソードだ。先生によれば、2度ひっくり返るとは2時間を超えるということらしい。とすれば、先生の場合、牧師ではもちろんないものの、2時間を超える長電話で、ピューリタンの牧師さながらに学生である私を教え諭しておられたと言えなくもない。

振り返ってみるに、先生の長電話は、私にとっては研究者・教育者になるための洗礼だったような気がする。研究者とはかくの如く学生に熱っぽく語ることができる教育者でなければならない。そう薫陶を受け、私は教壇に立ち続けてきたのではなかったか。そのことを思い出すたびに、私ももちろん牧師ではないが、学生に直に熱っぽく語ることを、少し疎かにしていないかと心配になってくる。

今の役職に就いて2年目になるが、大学の規程によれば、この役職者は、半期2コマで通年4コマまでしか授業を担当できないことになっている。私は、アメリカ文学・文化に関する講義1コマ、演習1コマ、卒業論文セミナー2コマを、半期2コマずつに別けて担当している。役職がなければ、通年12コマを担当するのだから、教壇で教えるという本来の使命を果たす機会が、私には3分の1しか与えられていないということでもある。白状するが、そうだからこそ、私は、誤った求道者になって学生からハラスメントだと言われることがないよう気をつけながら、講義でも演習でもセミナーでも、学生に熱っぽく語ることを殊更に心がけているのだ。

アクティブラーニングはもちろん重要だが、教師が自分の言葉で学生に熱っぽく語ることも、それに劣らず大切だと思う。教育とは人格と人格の触発だと言ったのは、アメリカの哲学者・教育学者ジョン・デューイだったと思うが、その意味は、教える者と学ぶ者が生きた言葉を媒介に接触することで互いに人間性を陶冶していくのが教育の本質だということだ。なるほど、言葉は儚いものに違いない。幻惑的かつ欺瞞的でさえあるかも知れない。でも、そういったことを重々知りながら、生きた言葉によって自分を他者に伝えようとするのは、人間にとっての必須の営みであるはずだ。

私は、これからも語ることを恐れず、語る情熱をもって学生と向き合っていこうと思っている。

（なんば まさのり）

実践女子大学文学部教授

【略歴】

上智大学大学院文学研究科英米文学専攻博士前期課程修了

尚美学園短期大学専任講師、実践女子大学文学部助教授を経て現職。

理事長挨拶



一般社団法人
教育文化振興実践桜会 理事長
鈴掛 まゆみ

平成30年6月18日「大阪北部地震」、7月初旬西日本を襲った未曾有の「平成30年7月豪雨」と大きな災害が続いております。各地の被災された皆様やご家族の方々に心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈りいたします。

5月20日（日）平成30年度実践桜会定時総会にて理事長として承認を受け、新理事、監事と共にこれから新たな2年間、一生懸命に桜会の活動にあたるつもりでございます。どうぞよろしくお願い致します。

今までの2年間に実現できなかった事項や、以前からの継続事項を理事会にて十分に話し合い、検討していきたいと思っております。

まずは、1つ目といたしまして、これまでの内規・細則を1つにまとめて業務運営規程（案）としました。この業務運営規程（案）は、実践桜会顧問の秋田弁護士に相談し、前期常任理事と十分話し合い検討を重ねて、平成30年8月の理事会にて承認後に施行の予定です。

2つ目は、昨年4月に逝去された第8代実践桜会理事

長・故戸野原須賀子さまより、5,000万円が実践桜会に遺贈されました。その使途についてもこれから理事会で討議して有効に使わせていただきます。

又、昨年11月の北陸3支部（石川、富山、福井）懇談会に続き、今年度は9月14日（金）に、愛知・三重・岐阜3支部懇談会が開催されます。支部の皆様と直接お会いし事業報告と懇親できることは桜会にとり大切な機会です。来年度は、どこの支部におじゃまできるのかとても楽しみです。

さて、実践桜会でも代議員制導入から4年が経過しました。定款に「定時総会は代議員をもって構成する」とうたっております。代議員の選出は、2年に1度です。代議員は実践桜会にとって重要な役割です。今回は、2019年・2020年度の代議員を選出しなければなりません。正会員の皆様には、この「なよたけ情報版24号」に同封されている『代議員立候補届』にて、ご返送よろしくお願い致します。その結果を受けて代議員選出管理委員会（委員長：田代 泉、委員：新庄豊子、委員：岡本容子）が当選者を決定し2019年4月1日発行「那与竹82号」にて新代議員氏名を掲載します。

平成30年3月をもちまして、協力団体である7科会の1つでありました技芸科会が活動を終了し科会を閉じました。

永きにわたり、実践桜会にご協力、ご支援を頂きましたこと感謝申し上げます。本当にさみしいことです。

実践桜会は、会員の皆さま、科会の皆さま、支部の皆さまのご協力とご支援で成り立っております。今後もお力添えをよろしくお願いいたします。

そして、実践女子学園の同窓生の力を1つにして2019年5月の実践女子学園120周年をお祝いいたしますよう。（すずかけ まゆみ）

実践桜会 役員の紹介（平成30・31年度）

理事長	鈴掛まゆみ（昭48大英）	文化部 常任理事	芳野 道子（昭42大食）
総務部 常任理事	新井佐知子（昭52大英）	理事	尾崎 緑（昭49大國）
理事	中村 雅子（昭34短食）	理事	鈴木真知子（昭51大被）
理事	御園 整子（昭37高校）	理事	飯田万里子（昭54高校）
理事	前川 照子（昭37高校）	広報部 常任理事	片山 久子（昭50短国）
理事	岡田 恵美（平04高校）	理事	渡辺 重子（昭48大國）
事業部 常任理事	高橋 泰子（昭48大被）	理事	阿部 佳子（昭48大英）
理事	藤本美津子（昭43短英）	理事	市川 菊子（昭48大英）
理事	尾崎紀美子（昭44大食）	理事	風間 佳子（昭52大國）
理事	後藤 英子（昭48院食）	監事	大和 恵子（昭46短国）
財務部 常任理事	福田壽美子（昭45短被）		吉野 淳子（昭52大食）
理事	田原久美子（昭61大被）		

＊カッコ内は（卒年 科）



平成30年度実践桜会定時総会報告

平成30年度定時総会が5月20日（日）、セルリアンタワー東急ホテルにて開催されました。代議員総数170名、出席代議員数90名、委任状提出62通で定足数を満たし、定款第22条により総会は成立し、全ての議題が承認されました。

- 【議題】
- 1.平成29年度事業報告の件
 - 2.平成29年度決算書承認の件
 - 3.公益目的支出計画実施報告書承認の件
 - 4.監査報告
 - 5.平成30年度事業計画（案）及び予算（案）の件
 - 6.役員改選の件

7.戸野原須賀子様からの遺贈について報告の件

総会後の懇親会は、学園理事長、学長、副学長、中高校長はじめ41名のご来賓のご臨席を賜り、総勢186名の宴となりました。

学園関係者のご挨拶、出席34支部より函館支部長のご挨拶、新卒のフレッシュな新入会員のご挨拶がありました。

続いて、昨年度常磐祭において桜会賞を受賞された日本舞踊研究部による日本舞踊が披露されました。ご自身も卒業生であられる水木先生の熱心なご指導のもと、OGの応援も得て、日頃の練習の成果を発揮され、会場は雅な雰囲気になりました。



系列科会、支部長、実践桜会役員の懇談会

総会・懇親会の後、系列科会長、支部長及び代理の方々の懇談会を、朝霧の間に開催。桜会の新旧役員が揃い、配布物の説明の他、活発な意見交換が行われ、有意義な時間となりました。

ご意見は、今後の桜会の運営の参考にさせていただきます。長時間にわたり、誠にありがとうございました。



受贈記念 「朝倉 摂 リアルの自覚」展に 寄せて

実践女子大学
文学部美学美術史学科教授

児島 薫



香雪記念資料館では学祖下田歌子先生的事績の顕彰に開ける展示とともに、学問や和歌の才能によって活躍した下田先生にちなみ、近世から近代にかけての女性画家の作品の収集、展示、研究を続けている。長年にわたり館長であった日本美術史研究者である仲町啓子文学部美学美術史学科教授がこうした方針のもとにコレクションを充実させ、展示室の渋谷移転を機に、より積極的な展覧会活動を展開してきた。2015年春には「実践女子学園創立120周年年記念特別展 華麗なる江戸の女性画家たち」展を開き、テレビでも取り上げられたのでご記憶の方も多くいらっしゃるのではないだろうか。同時期にご近所の山種美術館でも本学所蔵品を多く貸し出して連携企画「上村松園生誕140年記念 松園と華麗なる女性画家たち」展が開催された。翌年秋には「1797年、江戸の文化人大集合—佐藤一斎収集書画の世界—」展を開催、岩村から作品を借用する企画展をおこなった。これらの展示でも焦点を当てたように、香雪のコレクションの最大の特徴は、近世の女性の文人画という知的で奥深い作品群である。仲町前館長とともに中国美術史を専門とする宮崎法子現館長も長年にわたる明、清画研究をもとに活動を共に支えてきた。

そのことを考えると、昨年の「朝倉 摂 リアルの自覚」展はずいぶん異なる内容であったので驚かれた方も少なかつたかもしれない。実は香雪では制作年においては近代の作品を多く所蔵している。ただ、それらは日本画で、

掛軸形式のものがほとんどである。朝倉摂は70年代以後は舞台美術家としての活躍で広く知られる存在であり、数々の賞を受賞している。一方でその活動の出発点は伊東深水に学んだ日本画家であり、この展覧会も70年以前の活動に焦点を当てるものだった。とはいえ、日本画の革新をめざしたため、一見して日本画とは思えない作品も多い。

この展覧会は朝倉摂氏のご遺族の伊藤亜古氏（富沢亜古さんという文学座の舞台女優でおられる方）から作品のご寄贈をいただいたことにより実現したのだが、お披露目の展覧会をすぐに開くことになり、思いがけない急展開に大慌てで資料収集に明け暮れた。結果的に、没後、他館に先駆けて朝倉摂展を開くことができ、小パンフレットながら事績をまとめることができた。朝日新聞、東京新聞には展覧会評を掲載していただき好評を得た。来館者数も35日間（月～土開館）で約1350人の盛況となった。

さてここからは個人的なことを振り返りながら書かせていただくことをお許しいただきたい。筆者は東京大学文学部美術史学科を卒業して大学院に進んだが、ずっと美術館学芸員となることを目指していたので、大学院博士課程在学中に世田谷美術館の非常勤学芸員として働き始めた。開館直前から一年と少しの間であり、スタッフ一同、何もかも初めて尽くしで右往左往しながら、非常勤学芸員だろうと休日ほとんど無く、毎日夜中まで働いた。休日はコンサート、芝居、ワークショップ、とイベントも盛りだく

んで、美術館がそうした多彩な活動を展開する、市内では先駆的な事例であったが、本当に休む暇がなかった。そのなかで、非常勤の学芸員の同僚の企画で、朝倉摂氏と美輪明宏氏のトークショーが実現した。お二人がまだ田舎の雰囲気のある美術館に来てくださったことは忘れられない。朝倉摂氏の舞台美術の仕事が渋谷PARCOで「セツノグラフィー 朝倉摂のステージワーク'86」として多くの舞台模型とともに展示され、一層注目された時期でもあった。

世田谷美術館にトークに現れた朝倉摂氏は、厳しい怖い方のように見えたが、旧知の大島館長が大歓迎をしてなごやかに終わった。筆者はその翌年、東京国立近代美術館に就職し、美術課研究員という身分で先輩の方々のもとでまずは所蔵品担当として作品に接しながら学んだ。そこに朝倉摂《黒人歌手ポール・ロブソン》(1959年)という作品があった。銀地の屏風なので一応は日本画なのだが、キュビズム風の描き方、黒人歌手の顔を大きく画面に描いた異色の主題が面白く、舞台美術家になる以前はこんな仕事をしてたのかと思った。それから戦後の日本画家、女性画家としての朝倉摂に興味を持ち、所蔵品の日本画の展示を考える中で、梶原雄子、三谷十糸子、堀文子といった女性画家の作品と共に関心を持った。

その後、筆者は個人的な諸事情で美術館を去り2000年から本学に奉職したのだが、朝倉摂氏が2014年に亡くなられた後、かねて知り合いであった作家の寺崎百合子さんが摂先生の弟子のような友人のような存在であったことを知った。一方で横浜にあるギャラリー・バリという大きな画廊で朝倉摂展があり、50年代の作品を中心に展示することを新聞で知り、行ってみたら、その点数の多さ、内容の豊富さに驚いた。さらにその後、作品がいくつかの美術館に寄贈されて収蔵されていく状況にあることを耳にしたので、図々しくもギャラリーにも香雪記念資料館にもお願いをし、寺崎さんのお口添えもあり、ご寄贈をいただけることになった。実は朝倉摂氏は戦後ご実家の朝倉文夫邸（これは大変立派なモダンな邸宅で現在、台東区立朝倉彫塑館となっている）を出て、代々木に家とアトリエを建て、以後ずっと代々木暮らしであったので本学とは渋谷つながりである。

朝倉摂氏はもともと、明治以来の彫刻家の巨匠、朝倉文夫の長女として英才教育を受けた「お嬢様」であり、妹の朝倉摂子さんも彫刻家（6才のときから彫刻家になろうと思ったという）の芸術一家だった。前述のように当時気鋭の日本画家であった伊東深水に師事し、権威であった戦時中の文部省美術展覧会、さらに戦後の日展に連続入選する秀才ぶりを発揮した。展覧会で練馬区立美術館から借用した作品《更紗の部屋》(1942年)にはまさにそうした戦時中とはとても思えない豊かな生活、おしゃれな女性の姿が力強く描かれている。

しかし戦後、そうした名門のお嬢さんとしての生活から飛び出し、日本画という枠も捨て、彫刻家の佐藤忠良氏、洋画家の中谷泰氏と炭炭や漁村で労働者の写生をおこなった。こうした素描もご寄贈いただいたが、当時の作品には、常に社会への関心を持ちつつ、もっと本質を突いた表現はできないか、という強い気持ちがみられる。一方で次第に日本が復興して高度経済成長期に入り、再び「画壇」

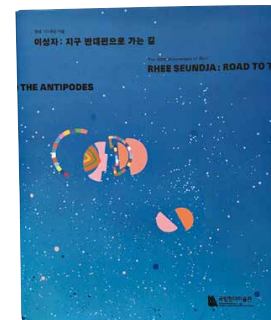
や「評論家」の男社会が構築されてくると、そうした閉鎖性を嫌って舞台美術へと活躍の場を変え、アメリカ留学を経て全く新しいアイディアを次々と導入していった。その生き方は以前も言われてきたことながら、実に力強い。一方で仕事での写真の数々では女優さんのように美しく、おしゃれなファッションで魅力的に輝いている。こうした女性としての生き方は、本学の学生たちに勇気を与えてくれるはずである。

朝倉摂の作品は、人物デッサンも上手で実技授業のお手本にもなり、また社会への問題意識が強く時事的な主題を取り入れているので、授業でディスカッションしていく中で、学生がそうした時代状況を知ることもできた。今後も本学の授業に活用できたらと思う。現在朝倉摂の日本画家としての評価が急速に高まりつつあり、本学の展示が第一歩となったことは喜ばしい。

さて紙数は尽きたが、もう一つ紹介したい展覧会がある。昭和10年から13年に実践女子専門学校家政科に学んだ韓国出身の李聖子（Rhee Seundja）(1918-2009)という人物がおり、彼女は戦後パリに渡って著名な抽象画家となった。今春、その生誕100年記念の回顧展がソウルの韓国国立現代美術館で開かれた。筆者はそのカタログに、李聖子が学んだ時代の実践の教育について寄稿するように依頼を受けた。ご存知のように本学は空襲にあっているため、この時期の資料は少ない。しかし偶然にも、少し前に昭和14年に家政科を卒業した佐藤寿子氏という人物の姪御さんから卒業アルバムを御寄贈いただいていた。そこには新築の鉄筋校舎の写真はもとより、最新式の調理実習室などの写真が含まれており、楽しく学ぶ女学生たちの笑顔がすばらしいものだった。このアルバムと、同窓会館所蔵の『なよ竹』バックナンバーも拝見して、筆者は当時の実践の学生生活を紹介する文章を書くことができた。最新設備に一流講師を招いての授業、富士登山やスキー合宿などのスポーツが盛んだったことや、戦時色の強まる中でもベートーヴェンのレコード鑑賞会を開いていたことなど、様々な活動がおこなわれていた様子もわかった。佐藤寿子氏の姉妹の妹は私の高校の同級生、姉の齋藤美保子氏は美術史研究者で現在郡山女子短期大学副学長である。

昨年度は、渋谷区伊達跡と言われた場所に住んだ洋画の巨匠、岡田三郎助のもとで学んだ有馬さえ（1893-1978）の油彩画2点をご寄贈いただいた。有馬は女性洋画家では初めて帝展で特選に輝いた人物である。今後学生とともに調査研究していきたいと考えている。

（こじま かおる）



カタログ



チラシ



展示風景

明きらめる人生 ～毎日の“ing”～

植田貴世子
文学部英文科卒



日常の何気ない会話の中で、特に思い出話をする時、あれ何年前の話?と思いつくと、20年前、30年前、いえ大学生の頃となると40年も前!と自らの年齢を、少し寂しさと共に思い知らされることがあります。時を重ねて63歳、実践女子大1977年の卒業です。

女性はクリスマスケーキ(25を過ぎたら用無し)と言われた最後の世代、悲しい表現ですが、まだまだそんな時代でした。一方で、勉強して大学に入って、社会の入り口に触れ、自分の世界を広げる事で晴れて‘大人’になる準備をする。そうすると、その後はきっと輝く未来が待っている…と高度成長期に育った若者に共通する価値観を携え、さして多くを考えることなく大学生活を送っていた、私もその若者の一人だったように思います。

ところが、卒業した1977年は、オイルショックのおりを受け、当時はまだ“お茶くみとコピー取りが女子社員の仕事”という慣習の名残りがあった時代、つまり経済価値創造を期待される立場に無い女性、しかも上述のクリスマスケーキの一手手前の女性に、やりがいのある就職先を見つけるのは容易ではない…というより困難でした。

東京出身の友人達は、それぞ

れ大学卒業後何らかの次の道を選んだのでしょうか、地方出身の私には、もう出身地に戻る事しか選択肢は無いと思い込み、“後は見ない”かのように、皆の落ち着き先を、関心を持って眺めたといった記憶がほとんどありません。

還暦を越えて、懐かしく同窓との食事の時を持てるようになって初めて、ああ、そうなんだ、そういう人生を歩んで来たんだと、改めて、卒業後の思い出を共有し、初めて同世代の生き様に関心を寄せる次第。今の若者に比べると(むしろ情報化社会という背景が無い中)限られた窓からしか物事を見ていなかったと、惜念にかられる私です。

と言って、誰しも何となく生きて来た訳ではなく、まさに工業化社会から情報化社会へと変遷する最中、クリスマスケーキと呼ばれた女性が、今や女性活躍推進法とやらに後押しされる、そんな時代の過渡期を遅く、社会活動や主婦業、そして子育てに健気に取り組んできた…次世代に、変わる時代の生きにくさをまあるく整え、きちんとバトンを渡した、ある意味あつばな人生を紡いで来た私達でもあります。

そのあつばれと自画自賛する私の人生のこれまでを、口早にご披

露しますと、卒業の頃、入退院を繰り返していた母を心配し、まさに卒業と同時に私の居場所、家族のもとに馳せ参じ、母に替わって家の事を手伝いながら、時間を見つけて塾講師のバイトに明け暮れていました。そのうち母の体調も回復、日本経済も少し持ち直していたのでしょうか、大学卒業後2年を経て、好きな英語を極めるべしと、英語専門学校で学び直しをし、卒業後、通訳・翻訳の会社に就職。通訳者や翻訳者を管理する仕事に就きました。縁あって結婚、アメリカで4年間、夫とある事業に取り組みましたが、健康上の理由で結婚生活を断念し、2才の子供とともに帰国。その後、1986年に実家のある徳島で起業、今は、東京・名古屋・関西、そして徳島に、20園の保育園、40カ所の家事・介護サービス拠点を運営する生活総合支援サービス企業、株式会社クラッシーとして創業32年を数えます。遠目に見ると、波乱の人生ともとれるかもしれませんが、当事者としては、なりゆきも受け入れつつ、現実と向き合って、でもその現実に流されたり、押しつぶされたりすることなく、自らの人生をコントロールするGame Makerとして、未来に一步一步近づいて来たかと自負しています。確かに順風満帆で

はなかった、社会の荒波をよくぞ潜り抜けて来たとして少し自分をほめてやりたい気分ではありますが、だからと言って泣いてばかりいたか、悔しい想いばかりしていたかと問われれば、いいえ、「面白かった」

打たれるごとに強くなり、躓くごとにやさしくなり、辛くも嬉しくも経験を重ねるごとに、心に新しい表情が刻まれ、私の人生に多様な文様を付与してくれました。母一人子一人の子育てスタイル、少々歪ではありますが、子育ての喜びも満喫できました。私のもとに産まれて来てくれたこと自体が、既に親孝行だ!と叫びたいくらいです。

もちろん、まだ人生が終わった訳ではなく、未だに毎日新しい体験をしているくらい人生“ing”です。これでいいと思った時は、命を閉じる時で、その瞬間までは“ing”、生きるという事は、まさにプロセスですから、Goalはどんだん、どんだん後ろ倒しになります(笑)

生涯現役というのは、そうしたい偉業ではなく、生きることはプ



ロセスだと思って、日々を重ねることだと最近達観したところです。

60歳を超えると一昔前ならば、ご隠居と呼ばれる身分、時代の進化が長寿の栄養素ともなったのか、今のところまだ、社会に物申す力は残っているようです。でも不思議に肩の力は抜けています。つまり“楽”に聞かれています。若い頃は、自分に何が出来るのだろう、どこまで、いつまで出来るのだろうと進んでも進んでもGoalが見えないもどかしさに焦燥感すら覚えたことが、今は逆に寿命の行き着くところがそう遠くないためか、人



生を明きらめることができるようになったような気がします。

当年とって63歳、人生を諦めるのではなく明きらめることによって、人生を終えるまでに、これとあれならこう出来ると、はっきり日々を積み重ねる幸せを実感しているところ…

(うえだ きせこ)

【プロフィール】

学歴
1973年4月 実践女子大学文学部英文科入学
1977年3月 同学卒業
1978年4月 St. Michel's Int'l School English Section 入校
1979年6月 同校修了

職歴
1979年6月 株式会社テクノ入社(通訳・通訳業務)
1981年12月 同社退社
1982年3月 渡米
1986年4月 Classy 設立
東京・名古屋・関西にて生活総合支援サービス(育児・家事・介護)事業を展開

受賞歴

1999年 日経ウーマン「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2000」キャリア・起業家部門9位
2007年 内閣府男女共同参画担当大臣賞女性のチャレンジ賞
2010年 「関西財界セミナー賞2010」輝く女性賞



烏鷺に魅せられて

川村 麻紗子

短期大学国文科卒



囲碁は、白と黒の石を使い、石を取ったり取られたり、最後は取った石は敵陣に、取られた石は自陣に埋め、陣地の多い方が勝ちという至ってシンプルなゲームです。

しかし4000年の歴史があり、発祥はインド・チベット・中国など諸説ありますが、19×19の碁盤は宇宙に例えられ、過去にも未来にも同じ対局は出現しないと言われ、その変化は無限大なのです。

21世紀中には無理と言われたコンピュータには、2016年にあっさり世界最強棋士が凌駕されてしまいましたが、まだまだ全てが解明された訳ではなく、こんな深遠なものを4000年も前に考え出した人間って凄いと思います。

一手一手に僥倖は無く、全て自分の責任。それだけに打つ人の人間性が表れ、高段者ほど謙虚です。一局打てば親友にもなり、様々なジャンルの人と出逢えるのも魅力。勝っても負けても面白い、不思議なゲームです。

幸運な出逢い

旧友に声をかけられ、数年前から実践校会囲碁教室でお手伝いをさせて頂いておりますが、私と囲碁の出逢いは遅く、38才でした。

学窓を巣立ち、当時まだ創世期だった民放テレビの世界に入り、無我夢中で現場を体験し、結婚、子育ての10年のブランクを経て現場に復帰、報道番組で国内外を飛び回っていた或る日、プロデューサーから「日本棋院へ行って碁を覚えて来い」と言われました。

ご存知テレビ番組には、出演者の他に、照明、美術、音声など数十人のスタッフが関わります。撮り直して時間が延びる度に変な費用が掛かります。囲碁番組の司会に抜擢されたミス・ユニバースのNG連発に困り果て、私にお鉢が廻って来た訳です。碁は全く知りませんでした。役得でフリーパスの教室も正直言ってチンプンカンプン。しかし何か惹かれるものがあった、自分で月謝を払って通う様に

なって、面白味が分かって来ました。

担当した番組の一つ「世界アマ選手権」で碧い眼の人々が碁を打つ姿に衝撃を受けました。当時は30カ国、現在は77カ国で碁が打たれています。「世界アマ」は年一回、日本各都市で開催され、ホテルでの前夜祭、4日間の本戦、表彰式とさよならパーティーまでの司会を担当します。その役得で世界各国の人々と親しくなりました。

1994年、第16回の京都大会の時、市内を案内したフランス囲碁協会役員P.デクロア夫妻から、お礼にパリの家に遊びに来ないかと誘われ、単身飛んで行ったのであります。その時連れて行って貰った碁のサマーキャンプで更なる衝撃を受け、私の人生が変わりました。パリから南へ650キロ、山岳地帯サンヤッケにある16世紀のカイコ小屋（石造り三階建）をモダンに改造したホテルで、昼夜碁を打ち、山を歩き、泳ぎ、飲み、語り、歌い、踊り、15日間眠る事を忘れた人々。その自由で豊かな遊



楽しいトリプル碁



小学校囲碁教室での指導



7月17日 ロッテ杯入賞の子供たち

び心に感動して以来、毎夏・欧州各地で開かれるヨーロッパ碁コンGRESの病みつきになり、20年参加して来ました。

欧州で知った新たな碁の魅力

コンGRESは夏休み中の大学や全寮制高校の施設を借り、費用も日本では考えられない安さで欧州各地から家族連れでやって来ます。

ガリレオが学んだ大学がある中世の街イタリアのアパノ、ローマっ子の避暑地丘の上の町フラスカーティ、フランスの港町マルセユ、ワインの都ボルドー、オーストリー・スロバキア・イタリア三国の分岐点美しいリゾート地フィラッハ、スウェーデンの森と湖の街レークサンド、フィンランドのリゾート地タンペレ、オランダの学生の街フローニンゲン、ポーランドの田舎町ツホラ、アドリア海の美しい島ラブ等々、観光旅行では体験出来ない土地と人々とその生活に出逢えたのです。

欧州の人々は定石に拘らず自分の考えで打ち、長考します。日本人は最初戸惑いますが、慣れて来ると長考の碁の魅力に嵌っていき、改めて碁の素晴らしさに気づくのです。

トリプル碁・ロッテ杯・勝負美人杯

コンGRESの多彩なプログラムの中で「レンゴ」に注目しました。ペア碁の三人版で一つの碁盤を3対3の六人で囲んで対戦します。ペア碁より責任感が分散し、下手の負担も軽く、上手にも面白く、是非日本に紹介したいと思いました。

日本には別の意味の「連碁」があるので「トリプル碁」と命名、普及の願いを込めて、三人の真ん中に級（初心者）の人を入れる事を条件にしました。企業の支援も頂き、年毎にリピーターも増え、昨年12月、15周年記念大会を開催しました。

企画オーガナイズした小・中・高校生の団体戦「ロッテ杯囲碁教室団体戦」は今年13回になり82チーム246名が参加してくれました。

囲碁を打つ女性は、源氏物語にも登場し、紫式部や清少納言など平安時代に嗜まれていたのに、現在の女性囲碁人口は男性の約一割ほどです。何とかこの魅力を知って欲しいと願い、六年前に友人四人と「勝負美人杯」を立ち上げました。一人でも多くの女性が参加出来る様に、高段者から15級まで8クラスに分け、其々オール互先にし、会話が弾む様に、おやつタイムを設けました。企業の応援を得て、初回の200人から500人へと年々参加者も増え嬉しい手応

えを感じています。

子供と教室と全日本囲碁協会

囲碁は思考力、集中力、創造力、忍耐力、バランス感覚などが自然に身につく、負けた時の経験が人への思い遣りを育むかと、近くの小学校で囲碁教室を開いて14年になります。キラキラと輝き、一人ひとり個性の違う、洗い立てのハンカチのような子供達からは毎回感動と元気を貰っています。

一人ひとり違う人生経験を持つ「若葉会」の人々からは私が教えられる事ばかりです。囲碁界の活性化と更なる発展を願って立ち上げた、アマチュア初の全国組織「全日本囲碁協会」では、広報委員長として、機関誌「日本の碁」の編集を担当する日々です。

恵まれた碁縁を大切に、一人でも多くの人に碁と出逢って戴くよう、普及のお役に立てればと思っています。（かわむら まさこ）

〔プロフィール〕
実践女子短期大学国文科卒
TBSアナウンサー時代に囲碁に出会い、番組及び大会司会、国内外の取材執筆、数々の大会企画運営に携わる。
日本棋院囲碁普及指導員・五段
若葉会主宰（2000年～2017年東京駅・いずみ囲碁ジャパンで指導。2018年より囲碁サロン・渋谷で指導）
池雪小学校囲碁教室主宰
勝負美人杯実行委員
全日本囲碁協会・広報委員長



フランス、サマーキャンプ



スウェーデンにて

地域交流
レポート

神奈川支部訪問 ～“オール神奈川”をめざして～

・まずは同窓生に支部の存在を知ってもらうこと



総会出席者（前列左より）

●関根 まち子（昭和34年／大食卒）
●藤島 栄子（昭和37年／高卒）
●鈴掛 まゆみ（昭和48年／大英卒）
●守田 由紀子（昭和48年／大英卒）
●露木 久美子（昭和41年／大英卒）
●青木 正子（昭和41年／大英卒）
●山内 典子（昭和43年／短英卒）
●野口 伊津子（昭和29年／大食卒）

●小栗 喜代江（昭和36年／大英卒）
●益 佳子（昭和48年／大英卒）
●片山 久子（昭和50年／短国卒）
●鴻田 紀久子（昭和48年／大英卒）
●阿部 佳子（昭和48年／大英卒）
●神戸 葉つみ（平成25年／大英卒）
●柴橋 見名子（昭和53年／大英卒）
●山田 嘉子（昭和56年／大英卒）
●栗原 富士子（昭和56年／大英卒）

これまで多くの卒業生の皆様の尽力で長く続いてきた小田原支部実り会から神奈川支部として活動を始めたのはご存知のことと思います。ひとえに、広く神奈川県内よりの同窓生の参加を目標とされました。

そんな新生から三年目の神奈川支部の総会が7月1日、横浜の老舗ホテルニューグランドの「スターライト」に於いて開かれました。

守田由紀子神奈川支部長（S48大英）、青木正子前支部長（S41大英）、柴橋見名子 支部役員（S53大英）、野口伊津子 家政科会副会長（S29大英）、山内典子 英分科会副会長（S43短英）、藤島英子 桜会結婚相談員（S37高）、関根まち子（S34大英）、小栗喜代江（S36大英）、露木久美子（S41大英）、鴻田紀久子（S48大英）、山田嘉子（S56大英）、栗原富士子（S56大英）、神戸葉つみ（H25大英）、益

佳子 英文科会役員（S48大英）、鈴掛まゆみ 実践桜会理事長（S48大英）、片山久子 桜会広報部常任理事（S50短国）、阿部佳子 桜会広報部理事（S48大英）総勢17名の参加がありました。

決算報告など満場異議なく承認され総会は終了しました。続いての懇親会に先立ち実践桜会の、鈴掛理事長より挨拶があり、実践桜会に故戸野原寿賀子様から多額の遺贈がなされたことの報告がありました。実践女子学園の現在についても、本学が入学前から卒業後の長きにわたり学生を支援し続けるEM（エンrollment・マネージメント）を標榜していることは、下田歌子先生の女性が自立を図るうえでの建学以来変わらない教育理念・思想である「訓言」に基づいているのではないかと話されました。

出席者の全員の自己紹介があり、実践への熱い



関根さん 藤島さん 守田支部長 露木さん 青木さん 山内さん 野口さん



益さん 鴻田さん 神戸さん 柴橋さん 山田さん 栗原さん 小栗さん

思い、支部運営の来歴とその苦勞、会員の充実した落ち着いた生活のあれこれを伺いました。

守田さん「小田原実り会の存在を那与竹で知った（発足S38年の時）中学一年に、ぜひ！入りたいと思った。」、青木さん「同窓会の総会には来ていたが、小田原支部の存在を知り連絡を取って参加した。神奈川支部立ち上げには故・戸野原先生にも賛同頂いた。益々大勢の集う神奈川支部になって欲しい。（乾杯のご発声）」、柴崎さん「支部役員をしています。今日は会計の工藤志げ子さんがお休みで残念。」、野口さん「足が利く限り参加したい。出かけるのは励みになる。」、山内さん「英文科ご出身者を探しています。お集りの三人ほどにお声かけしていきます。」、藤島さん「ときわ会は高校卒業の方歓迎いたします。科会長を8年務めました。」、鈴掛理事長に声をかけられ今は桜会の結婚相談員をしています。」、関根さん「横浜に住んでいます。楽しく参加させて頂いています。」、小栗さん「傘寿を迎えました。車の運転もきっぱりやめたので、買物が少し不便になりました。父が下田先生を尊敬していて強く薦められ中学から実践に入りました。クラス会は続いています。が学園・同窓会とも繋がりをもちたいです。」、露木さん「毎週数回の通院が必須ですが、月水金の午後は仕事もしています。元気うちに色々やってみよう（お着物で参加）」、鴻田さん「大学時代は寮に住んでいました。同窓生の集いは懐かしいです。」、山田さん「那与竹の配達員を見ていたら、近くにも同窓生が居そうと思いきや事務局に問い合わせた。クラスメイトの栗原さんに声をかけました。」、栗原さん「今日、初めての参加です。還暦

を迎えました。山田さんのクラスメイトです。」、神戸さん「厚木出身なので、初めて参加しました。よろしく願います。（平成のご卒業）」、益さん「守田支部長・鈴掛理事長と英文の同学年の繋がりで、神奈川支部立ち上げ時にも参加しました。」、鈴掛理事長「私も、神奈川のはずれ山北出身です。大学時代は創始者についてあまり教えられず、桜会に入ってから下田歌子先生について学びました。」、片山理事「短大の2年は常磐寮です。現在の学園の新しい創立120周年記念館の場所にありました。」、阿部理事「母が実践のファンでした。中高から大学英文まで実践です。祖父の生家は明治大正時代に並木橋で米穀商を営み、下田先生ご自身がお米を買いに見えられた事もあったと聞いています。」

テーブルを移して、談笑とお食事を満喫し和やかに懇親会終了となり、集合写真撮影後に、ニューグランドホテルのご厚意により案内説明付きの、ホテル本館の建築見学会がはじまりました。山下公園の真向かいに位置するランドマークの一つである美しい調度とデコラティブな造形には本当に圧倒されました。

今年、新会員から三名が参加されたことは、支部役員さんにとって、首都圏に位置し潜在的に多くの卒業生が在住していると思われる神奈川支部には、会員予備軍開拓の大きな道が開かれていると感じられたのではないのでしょうか。

まずは同窓会としての実践桜会の存在を知ってもらうことは、十分達成されたと思われる、改名後の神奈川支部訪問でした。



ホテルニューグランド本館見学会



乾杯の発声：前支部長 青木正子さん

札幌支部

岩本 郁子
(昭和37年/大食卒)



去る 6月10日支部総会に先立って前日の9日(土)の夜、札幌大通公園に設営されたよさこいソーラン祭りの舞台上、在校生72名が今年で21回目の参加で実践の学生らしい見事な演技を披露しました。恒例により支部員の有志で応援の品を届け、若々しい華やかな衣装を付けた学生さん達との交流は強い絆を感じ、元気を頂いた感動的なひと時でした。

6月10日(日)支部総会は7名逝去の連絡を受け、ご冥福を祈り黙禱を捧げました。

当日体調不良で出席出来なくなった方もあり、いつもお目にかかっていた先輩たちの姿を思い出し寂しさと同時に、やはり同窓会は先輩たちによって支えられてきたことを改めて気付かされました。この絆の継承を大切にしていける役割を痛感致しました。又、卒業以来、初めて遠方旭川市から参加して下さり、懐かしいお話に楽しい時間を過ごす事が出来ました。会員の親交を深めることが出来、大変有意義な親睦会でした。

今年度の社会活動は昨年に続き9月8日(土)予定しております。「健康づくり講演会」は健康で長生きの秘訣は、身体と心のバランスが大切であることから、テーマ「認知症予防と心の健康」～スピリチュアルケアを目指して～講師 藤女子大学保健センター長・人間生活学部教授(医学博士)藤井義博氏に依頼しております会員の協力により多数の参加を期待しております。



札幌支部総会
会場：札幌大通公園
平成30年6月10日

函館支部

宮村 智子
(平成1年/大國卒)



今年度の函館支部の活動予定をお知らせいたします。

函館支部は誕生してから、50年以上になります。

会員20数名の小さな支部ではありますが、年一度(10月)の同窓会を予定しています。

同窓会では、世代を超えて、実践の思い出などを語り合い、親睦を深めております。

函館・道南ご出身の方がいらっしやいましたら、ぜひご連絡下さい。



岩手支部

村井 沙織
(平成22年/大人社卒)



去る7月1日(日)ホテルメトロポリタン盛岡NEWWINGにて、平成30年度支部総会と懇親会を開催しました。13名の会員が集いました。年に一度のこの日を楽しみにしている会員が多く、今年も元気な姿で顔を合わせることができたことを喜び合いました。懇親会では、美味しいお料理を頂きながら、近況報告に花を咲かせ、終始和やかに楽しい時間を過ごしました。

今年度の山形県支部総会が6月10日(日)日本海の見える鶴岡市湯野浜「真砂屋」で行われました。内陸からは遠いため、ジャンボタクシーに乗り合わせて8名参加(幹事地区含めて計12名の出席者)。例年より若干参加数が少ないながら、今年も元気で再会できたことに皆感



宮城県支部

渡邊 裕子
(昭和39年/大國卒)



今年の支部総会は、昨年と同じメトロポリタン仙台の「はや瀬」で行われました。参加者は元支部長 飯岡綱子さん(昭和20年卒)、前支部長 渡辺恭子さん(昭和39年卒)をはじめ総勢12名の参加。会に先立って、「仙台弁による詩や句の朗読」が行われました。(朗読 渡邊裕子) 懐かしい方言の響きに、「小さい頃の風景が思い出された」などと、笑いを交えながら暫し思い出話に花が咲きました。

その後の総会ではそれぞれが近況報告。とても92歳とは思えない飯岡先輩の凛とした若々しいお姿に、後輩たちは今年もいっぱい元気を頂きました。



お元気な飯岡綱子さん。



山形支部

嘉規 則子
(昭和45年/大食卒)



今年度の山形県支部総会が6月10日(日)日本海の見える鶴岡市湯野浜「真砂屋」で行われました。内陸からは遠いため、ジャンボタクシーに乗り合わせて8名参加(幹事地区含めて計12名の出席者)。例年より若干参加数が少ないながら、今年も元気で再会できたことに皆感

謝!感謝! 和気あいあいとした中にも今後の魅力ある支部活動のあり方・新会員への勧誘等について活発に話し合いがなされました。又、懇親会での超新鮮な海の幸に感激し、「加茂水族館」では水槽の中でゆらゆら揺れるミズラゲの幻想的な美しさに心が癒され、大きな感動を受けました。支部活動への参加が、明日へのエネルギーとなるような機会でありたいと思いました。



福島支部

本多 節子
(昭和51年/院國修)



平成30年度活動報告と今後の計画

平成30年度福島県支部の総会と講演会(一般市民も聴講)を6月30日(土)に郡山市で開催いたしました。ご来賓の鈴掛理事長からは、2019年5月7日の創立120周年に向けて、「男女共同参画社会の実現」を意識した「教学改革が推進されている」ことをご紹介いただきました。

総会では、本支部の『25年のあゆみ』の編纂の目的と記事解説を行い、同窓生の皆様と歩んだ25年に思いを馳せました。会食後の講演会では、山内晴子学術博士に、「朝河貫一博士の提言：対アジア外交を中心に」の演題で講演をしていただきました。歴代の政治家と外交官が必読の書と伝える『日本の禍根』を読み解く講演会は、私たちの批判力を喚起させ、今後の学習の糧となりました。

来年度は、3年間に渡る山内先生の講演の最終年度となります。来年度

(第26回)の総会・講演会も郡山市で、6月29日(土)に開催いたします。



茨城支部

久保田 節子
(昭和40年/短英卒)



6月24日(日)、水戸京成ホテルにて会員十七名の出席を得て、無事総会を終了することが出来ました。

午後からはホテル内のチャペルに会場を移し、10名の地域の方々にも参加して頂き、「ミニバンド日本の歌」のバンドでコンサートを開催いたしました。

平成16年に結成されて以来県内のフラワーパークやメディカルホームなどで演奏活動をしておられます。5人のメンバーの内、キーボードとボーカルを担当している同窓生の杉本和子様の歌についてのナレーションには心がこもり、透き通るような歌声が印象的でした。

毎年、社会活動助成金を使わせて頂き、地域の皆様方と楽しい一時を持つことができ、会員一同感謝しております。

栃木支部

池島 敬子
(昭和49年/大英卒)



県支部総会を9月30日(日)に行います。今年はマイクロバスを使わずに行きます。

「オオヤファンテーブル」でランチ、大谷石造りの個室です。その後、「ギャラリーあい」でおしゃべりします。みなさまの参加をおまわしています。

群馬支部

茂木 初枝
(昭和45年/大被卒)



突然の大雨災害に襲われた地域の皆様にお見舞い申し上げます。

群馬支部は、6月10日

(日)ホテルメトロポリタン高崎において総会、講演会、懇親会を致しました。講演会は昨年に続き「源氏物語の女性たち パートⅣ」と題し父を失った娘たち空蟬、夕顔の生涯を学びました。

懇親会は92歳の大先輩が、健康で過ごせる日頃の心構えを、美しい声で話され出席者は皆背筋を伸ばし、次回を楽しみにと笑顔で散会となりました。

お忙しい方もいつか時間が出来たら出席頂けますことを願っております。

次年度も講演会は「源氏物語」を予定しております。どうぞお出下さい。

「香道」は、興味はあるが触れるチャンスが無いという声に、秋の研修会は沼田市において「香道を聴く会」を計画しました。

「香道」とはどんなもの?のぞいて見ませんか?お待ちしております。



埼玉支部

小河原 俊子
(平成4年/院食修)



第22回総会並びに講演会を6月23日(土)埼玉会館で開催致しました。来賓に大学・短期大学部副学長難波雅紀様、学長室担当課長内田雄介様をお迎えし、学校の方針や取組、将来構想、入試状況等について伺いました。

また、実践校会理事長掛まゆみ様からは、お祝いの言葉を頂きました。総会後は、「ヘンリー・ソロー よみがえる日々の生活と日記」を翻訳家山口晃様による講演を聞きました。会員外の方も大勢参加、好評のうちに終了することができました。今後の活動としては、8月清友会合唱コンサート鑑賞、10月3日彩の国めぐり見学研修会「平家物語の史跡を訪ねて(西光山有勝寺を中心として)」、1月新年会、3

月実技講習会（楽しい絵手紙教室）を計画しています。母校の繁栄につながる応援をすること、会員のつながりを広げられるようにするために、今後も一層充実した活動が続けていきたいと考えています。



千葉県支部 竹下 寛子 (昭和62年／大食管卒)

平成30年6月24日來賓 理事長 鈴掛まゆみ様、学長 城島永一郎様、家政科会会長 熊切 富子様、家政科会役員 野口伊津子様、鈴木克子様、講演会講師 椎原伸博先生をお迎えして千葉県支部15周年総会が無事に終了いたしました。

千葉県支部の役員の交代がありましたのでご報告させていただきます。

支部長をさせていただくことになりました。今回は会場も新たに素晴らしい感動の総会でした。

神奈川在住の卒業生の皆様!! 是非、神奈川支部にご入会をお待ちいたしております。たくさん卒業生の皆様にお逢いできるのを楽しみにしています。

- ①支部の名称を千葉支部から千葉県支部に変更する
- ②会報誌『ミルフィユ』を希望者にはメール配信で送る。メール配信の方には年会費を一部軽減する。
- ③秋と春にはミニ同窓会を予定。以上の内容が決定しました。よろしくお祈りします。



神奈川支部 守田 由紀子 (昭和48年／大英卒)

神奈川支部の礎となる「小田原支部実り会」が発足しましたのが昭和38年11月号です。今年で55年の月日が流れました。

この記念の意味も込めて、これまで湘南平塚での総会会場を港町横浜の「ホテルニューグランド」に移すことにし、7月1日（日）に「平成30年度実践桜会神奈川支部総会・懇親会」を行いました。

理事長、前理事、広報担当のお二人、更に新入会員のお二人を含め総勢17名の参加者で、年に一度の楽しい再会のひと時を過ごしました。

前支部長からは、55年前の支部発足に向けて諸先輩方々が卒業生宅を一軒一軒訪ね回られ、支部づくりに奔走されたお話がありました。このような苦労を忘れないようにして、更に前進して参りたいと思っています。

懇親会の終了後、「ホテルニューグランド」の建物の中の見学会を行いました。歴史を感じさせる重厚な宴会場、ロビー、2階、階段などでした。この歴史的雰囲気を感じ出す段階で、参加者一同の写真を一枚。

終戦後の米軍による占領時代にマッカーサー司令長官もこの階段を歩いていました。その姿に想いを馳せながら閉会となりました。

来年の総会は2019年7月7日、ここ同じ「ホテルニューグランド」で開催することになりました。今回は会場も新たに素晴らしい感動の総会でした。

神奈川在住の卒業生の皆様!! 是非、神奈川支部にご入会をお待ちいたしております。たくさん卒業生の皆様にお逢いできるのを楽しみにしています。



山梨支部 大島 節子 (昭和47年／短栄卒)

梅雨とは思えないほどの晴天に恵まれた6月29日に恒例となりました山梨支部のラベンダー収穫作業と母校バザー用の匂い袋づくりを行いました。今年はフェルト地を組み合わせて袋にラベンダーを詰めました。フェルトの組み合わせには結構頭を使い、簡単に思えるリボン通しに四苦八苦しながら楽しい作業が終了しました。バザーの折にはぜひ手にして頂けると幸いです。当日は総会の日程や事業内容も検討され、9月22日土曜日と決め、山梨県立文学館の学芸員を招いてお話を聞くことにしています。支部の大勢の皆様参加をお待ちしています。



長野支部 塚田 倭文子 (昭和45年／大被卒)

実践桜会長長野支部は1980年の創立以来、和やかな交流が続けています。

昨年は井原理事長をお迎えして善光寺『淵の坊』で総会を行いました。

平成30年度は、10月14日（日）に岡谷市にて総会が行われます。岡谷は近代日本の重要な産業、養蚕製糸業の町です。総会後『岡谷養蚕博物館』を見学し、『製糸業における女子教育』についての講演が行われる予定です。地元のみならず、全国から岡谷に集まった工女さんや、養蚕に関わった女性達への教育の、興味深い講演が聞かれることと思います。

会員の皆様、新卒業生の皆様、どうぞお気軽に総会においでください。そして一緒に、日本の近代化を支えた女性達に想いを馳せてみたいと思います。



新潟支部 齋藤 清子 (昭和51年／大食卒)

平素より広報部の皆様にお世話になり、感謝申し上げます。

さて、平成30年9月25日が前支部長 寺澤 昭子氏の一周忌にあたり「偲ぶ会」を開催し、併せて現在休職中の実践桜会新潟支部の再開に向けて、各地区の幹事の方々と共に始動する予定です。

支部活動に不慣れな点や、様々な配慮の足りないことも多々あるかと思いますが、本部や各支部の皆様のご指導をいただきながら支部一同奮起し、頑張りたいと思います。



福井支部 谷 洋子 (昭和42年／大食卒)

北陸新幹線の福井延伸が決定してから、駅前が益々にぎやかになってきました。新緑が梅雨に輝く7月1日、平成30年度総会を駅前のユアーズホテルフクイ「ボヌール」にて行いました。総会後の懇親会では、会員5名がフランス料理を食べながら、和やかな雰囲気の中、近況などを語り合いました。懇親会後は、笑点でお馴染みの林家たい平さんが主演する爆笑落語会を鑑賞しました。支部会員が、横並びに座り、日ごろの喧騒を忘れて、大笑いをしたひと時でした。来年もみなさんと和やかな時間を過ごせることを楽しみにしたいと思います。



愛知支部 神谷 洋子 (昭和47年／大食卒)

今回 愛知県支部は、三重県支部と合同で同窓会を行います。

日時：9月14日（金）
11:00～14:00



場所：名古屋 Marriott アソシア ホテル 16F「サルビア」

11:00～12:00 渡辺美佐子氏朗読会
12:00～14:00 3支部と桜会本部との交流懇談会

先日東京での渡辺美佐子さんの朗読会に参加して、作品に引き込まれる楽しいひと時で写真も一緒にとらせていただきました。名古屋での開催も準備しました。

三重支部 竹腰 葵 (昭和44年／大英卒)

陽射しの強さに外歩きも憚らない日々です。

今年の夏は例年になく猛夏でした。でも、実践

桜会は負けません。更に大先輩の渡辺美佐子さんは、9月14日に朗読会を開いて下さいます。今回は、愛知県・岐阜県・三重県と同窓生の方々にお声がけをして、同窓生以外の方のご参加も受け、一人でも多くの方に聴いていただきたいと思います。渡辺美佐子さんのご用意される作品が楽しみです。朗読会の後、愛知・三重2支部と桜会本部との「交流懇談会」を持ちます。



関西支部 並川 みき子 (昭和45年／大関卒)

実践桜会関西支部は関西2府4県（大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・和歌山県・奈良県）にまたがる広範囲な支部で、会員数は175名です。（2018年6月19日現在）6月18日（月）

渡辺美佐子さん朗読会は地震の為中止となり、実践ときわ会会長古藤黎子様・国文科会会長若松幸子様と加藤和子さん（92才）をお尋ねし、楽しく歓談しました。

7月11日（水）ホテルグランヴィア大阪 しずくにて幹事会をしました。

9月10日（月）ホテルグランヴィア京都にて「渡辺美佐子さん朗読会」を行います。10月24日（水）ホテルグランヴィア京都5F 草子の間に第86回関西支部総会・親睦会を行い、講演会には武内裕氏をお招きし「京焼・清水焼



のつくり方」についてご講演頂きます。

10月27日（土）28日（日）実践桜会バザーには都都味噌を寄贈致します。

2019年3月に役員・幹事・地区委員会同委員会をホテルグランヴィア大阪しずくにて行い、2019年度の新役員と活動の確認を致します。



加藤和子さん(92才)をお尋ねして

鳥取支部 常田 明美 (昭和41年／大食卒)

平成30年度の鳥取支部の行事予定は、会員の皆様の要望により下関・門司港の視察を予定いたしております。

- ・7月6日（金）洋菓子のとびきりおいしいボンズ・ノノにて拡大役員会を開催し、秋の視察研修・今後の支部の持ち方について話し合いました。
- ・11月5日（月）・11月6日（火）視察研修

- 1日目 本州最西端・維新発祥の地下関を研修。
- 2日目 関門海峡に臨む門司港を散策し、視察研修をいたします。



島根支部 大谷 香代子 (昭和49年／大関卒)

新卒業生名簿から、島根支部会員募集のお電話をしていたところ、お電話口で「実は私も実践なんです！」鳥取出身のお母様。まあうれしい！島根県は卒業されても就職対象が少なく、ほぼ関東圏関西圏で就職されています。当地に在住の方々は年配者で、若い方々は松江支店などにご主人が転勤になられたというパターンですが、この転勤の方々は全く情報がなく、支部活動にご参加いただけないのが現状です。

島根支部の社会活動は、毎年講師



先生をお招きしての地域社会活動で100名以上の参加人数を数えております。本年は冷泉貴実子氏・昨年は笹本武志氏・霞会館衣紋道久世氏冷泉氏・香道宗家三條西公彦氏・庖丁道四条隆彦氏。

地方ではとても珍しいことと、大好評を博しております。

岡山支部 谷本 淑恵

(昭和54年／大英卒)

今年度の岡山支部支部会は30年11月8日(木)に開催します。

今回は備前、牛窓方面へ出かけます。

岡山駅で集合後、まずは「関谷学校」へ。

有名な榎の木、綺麗に色づいていたらしいのですが…

まあ、当日のお楽しみということで！
そしてお食事は牛窓マリニー。

牛窓港で捕れた各種のお魚、一匹丸ごと調理して下さいます。

しかも、ギリシャ風!!
とっても美味しいですのです、これもお楽しみに!

最後は牛窓オーリーブ園へ。
山裾に広がるオーリーブ畑。

牛窓は日本のエーゲ海と言われてい
るんですよ!

と、今年も楽しき満載の支部会です。
10月早々に案内状を送ります。

山口支部 根ヶ山 祥子

(昭和61年／大被卒)

山口支部では2年に一度、支部総会を開くかたちにてしております。昨年7月23日には下関市長府の維新ダイニング『十楽』で、久しぶりにお会いする方々と一緒に美味しいお料理とおしゃべりを楽しみました。来年度は開催年に当たりますので、県内の会員の皆様がより多く参加していただこうと思います。

山口の地より、実践桜会のおますすの御発展をお祈りしております。

愛媛支部 城徳 かをる

(昭和41年／短生卒)

平成29年度支部総会
は、松山市道後で開催
致しました。

現在の支部会員の出
欠返事のお話し、一人でも多く参加し
て欲しくて、過去に出席された方、
ご様子など情報交換をしました。

参加者は、年々高齢化し認知症や
介護が現実化しています。しかし、会
員に声掛けをして、絆をつないでい
きたいと思います。

いまだきの大学受験・オープンキャン
パス等の現状を話しながら自分たち
は、親にすめられ実践に進学した事
を思い出して在学中の楽しい寮生活・授
業などを話し合い、学生時代にタイム
スリップしました。

平成30年11月4日(日)支部総会・
松山市で予定しております。



高知支部 青木 京子

(昭和49年／大國卒)

6月2日一年一度の定
例会を須崎市の桑田山
温泉にて開催しました。

県西部の方々の便を考
えたのですが、六名の参加となりました。
すてきな温泉郷で昼食後、高知
県最古級の無鳴神社見学、久礼大正
市場での買い物等楽しい親睦の時をも
ちました。11月には会報3号の発行を
予定しています。



福岡支部 玉井 由起子

(平成3年／院被修)

福岡支部は「日本の
伝統文化に触れる」を
テーマに、博多の文化
や歴史に関する研修会
を開催しております。

昨年度は、博多辛子明太子やめん
べいで有名な(株)山口油屋福太郎
の山口社長から博多の食文化について
ご講演頂きました。

本年度も12月頃に総会と研修会を開
催したいと思っております。詳細につ
きましては、研修内容が決定後、支部
会員のみなさまにご案内させていただきます。
多くのみなさまのご参加をお
待ちしております。



佐賀支部 藤山 たか子

(昭和49年／大食管卒)

7月4日(水)に、佐賀市にある老
舗旅館あけぼのにて第54回佐賀支部
総会を開催致しました。出席者10名で
ほとんど毎年同じ顔ぶれではありますが、
美味しい料理に舌鼓をうちながら
時間の過ぎるのも忘れ、笑い声の絶え
ない楽しいひと時でした。

御年91歳の先輩を頭に、八十代3名、
七十代2名、六十代4名と年齢はさまざ
まではありますが、その時代時代の大学
生活の様子等語り合い、本当に有意義
な会となりました。この場所では来
年もまたお会いしましょうと誓い、別
れた次第です。改めて、皆様の健康を
願うばかりです。

また、今佐賀では、明治維新より
150年に「そして今、佐賀は未来を見
ている」と題し「肥前さが幕末維新博
覧会」が来月1月14日まで開催されて
おり、佐賀の偉業や偉人など佐賀の魅
力が紹介され、いろんな会場で幕末の
佐賀を体験できます。この機会にぜひ
佐賀へお越し頂ければ幸いです。

最後になりましたが、この度の大雨
が西日本各地に甚大な被害をもたらし

ましたこと、被災された方々に心から
御見舞い申し上げますとともに一日も
早い復旧を願っております。



熊本支部 瀬口 敬代

(昭和59年／短英卒)

“曜日に関係なく総会
は11月1日”と昨年度の
総会で決定したとおり、
平成30年度総会を11月1
日(木)に開催いたします。

ヨーガで軽く身体を動かし、その後
懇親会を予定しています。

多くの方の参加、充実した会になる
よう期待しています。

大分支部 清水 登美子

(昭和50年／大國卒)

2年に一度の支部会を昨年9月9日、
レインボートホテル大分(富貴野)で
開催致しました。

毎回出席者が10名をきっていました
ので、13名の出席の返事を頂き、私
共世話人としては大変嬉しく当日を迎
えました。5名の方に初参加頂き大変
感謝致しております。大分支部として
も勇気づけられる思いでした。

美味しい日本料理を頂きながら、
40-80歳代と年齢は多様ですが、当時
の学園生活や寮生活など昔話の花が
咲きました。同窓の絆は年齢を超え、
和やかに楽しい時間を共有することが
できました。

健康に留意して、2年後の再開を誓
い、散会致しました。



沖縄支部 島袋 節子

(昭和41年／短生卒)

「這ってでも参加する
からね〜!」と言う現在
リハビリ中のY先輩の声
に励まされ臨んだ今年度
の支部総会であったが参加者は結局
いつもの顔ぶれであった。それはそれ
で忙しい中、参加して下さいた会員に
は心から感謝申し上げたい。更には梅
雨明け後の暑い中「歩き」にも関わら
ずときわ祭協賛バザーへの提供品を抱
えて汗をかきかき持参して下さいたS34
年短大被服卒の湖城さんには頭が下
がった。しかもその場で皆に広げて見
せて下さいた「琉球ガラス」と「琉球
漆器」は素晴らしい一同感動すると
もに郷土の作家さんの技術に誇りを覚
えたものである。

さて、今回の開催場所は初めての場
所だったので時間配分がわからず米朝
首脳会談よろしく「ワーキングラン
チ方式」を取り入れようということに
り昼食をとりながら議事の進行を図った。



支部長挨拶に続き定時総会の報告
の後、平成29年度の事業報告・決算
及び監査報告、平成30年度の事業計
画・予算についてスムーズに進行了。
その後は今どき人を集めることの難しさ
(趣味のサークルでさえだ)から支部
の存続にまで話がおよび取り敢えず
2022年(30周年)迄は皆で頑張り
と誓い合ったのである。

その他お薦めの本(鈴木政子著「語
らなかつた女たち」日野原重明著「生
きていくあなたへ」永六輔著「職人」)
の話・健康談義などS37年大学食物卒
の大湾さん手作りの「小桃の甘煮」と

「小桃の甘酢漬け」を頂きながら和氣
あいの後、再会を約し散会したので
あった。



英国支部 松嶋 みどり

(昭和49年／大被卒)

昨年9月2日グリニッジ天文台へ

日常生活で一歩づつに立ち寄ると
言った場所ではないグリニッジ天文
台、皆は初めての訪問で遠足気分です。
ロンドンアイからリバーボートで30分、
秋晴れの心地よいお天気に恵まれ、テ
ムズ川兩岸に見える観光スポットも思
いの外楽しめました。新しいメンバー
も加わり自然体で話のできる同窓生、
年代は違っても同じ環境で青春を過ご
した安心感が笑顔を作ります。

西半球と東半球の境に立つことができ
るグリニッジ子午線のラインにまた
がって記念撮影。



科会だより 活動報告 & 今後の予定

実践ときわ会

科会長:古藤 黎子

6月14日、校友会館に於いて渡辺美佐子さんの朗読会を催し、向田邦子さんと佐藤愛子さんの作品を朗読していただきました。

また、4月12日、5月10日、6月7日の3回、初風緑さんの「歌とストレッチの会」を催しました。

二つの催しものには、沢山の方がたにご参加いただき、大変素晴らしい時間を過ごすことができました。有難うございました。

ご好評に恵んで、初風さんの「歌とストレッチの会」は、下半期も3回催す予定です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

「ときわ会」は今後下記のような活動を予定しております。

■渡辺美佐子さん 公演 11月の予定 於「座・高円寺」

■初風緑さん「歌とストレッチの会」10月～12月に各1回予定。

於 校友会館

■「ときわ会通信」発行

■HP更新 等



りました。技芸科・被服学科・生活環境学科と続く長い糸を繋げてまいりましょう。未来に向けて発展していく科会、母校、実践校友会に貢献できる科会を目指して共に歩みましょう。ご入会は随時お受け致します。

今年の3事業は以下の通りです。楽し4の中にも学びと体験、技術、知識の集積を考えています。

年間行事

■総会・懇親会

4月29日(日) 12:00～

会 場: 日比谷 松本楼



平成30年度総会 於: 日比谷松本楼

■鑑賞会:〈プリンスアイスワールド2018〉

5月3日(祝・木) 好評裡に終了しました

■講習会:〈ビーズ刺繍のネックレス製作〉

9月1日(土) 13:00～16:30

会場: 実践校友会館

参加費: 3,500円

今まで講習したことのない技法です。



クリスタルクレイを使ったペンダントトップ製作

■講演会と見学会:〈講演と武相荘見学〉

日 時: 11月20日(火)

集 合: 小田急線鶴川駅北口11時集合

参加費: 6,500円

日 程: 霜月亭にて昼食 講演会

その後 武相荘見学

講演会: 「渋谷・実践・常盤松」(仮題)

講 師: 井上一雄先生

(実践中高元教諭)

武相荘は戦後GHQとの折衝や実業家として活躍した白洲次郎、随筆家として活躍した正子夫妻の邸宅です。タクシーにて移動します。

■会報誌発行

・歌ごろもニュースNO.22 6月初旬発行

総会報告・年間行事詳細・母校の情報等をお知らせする情報版です。

・歌ごろも27号 12月初旬発行

創立25年記念号(2016) からカラー化しました。26号では飯塚幸子元学長にご自身が受けた「実践の裁縫教育」についてお伺いしました。

■ときわ祭校友会バザー協力品製作

毎年手作り品を製作、校友会に寄贈しています。

■同好会「着物を考える会」、活動中です。

実践家政科会

科会長:熊切 富子

西日本豪雨による災害は誠に驚異でございました。どんなに恐ろしかったかと被災地を思いました。温暖化はもっと真剣な問題として考えるべきと思いましたが、日本の地形から見ても再びおこるのではないかと、対策について思われます。

平成30年度の家政科会総会には、学園の理事長様、学長様、実践校友会の理事長様にご出席戴き、また多くの家政科会会員以外の方のご出席を願い皆様で語り合う事が出来た事を嬉しく思いました。

(くまきり とみこ)

平成30年度後半の行事予定をお知らせいたします。

■8月26日(日)

中国料理講習会 於: 霞香(フーシェン) 浅草橋 11時30分

学生さんとともに勉強致します。

■9月26日(水)

福祉施設に贈る作業用エプロン縫製

於: 校友会館 10時半～

道具類、お弁当は用意してあります。

■10月11日(土)

見学: 鎌倉ハム富岡商会、昼食: 九右衛門邸

■12月15日(土)

歳末助け合いに(家政科会一円玉募金より) 寄付

キリスト教海外医療協力会に古切手

寄贈



■平成31年1月30日(水)
新年会 於: ハイアトリージェンシー東京 正午～
楽しい福引を致します。

実践国文科会

科会長:若松幸子

平成30年度後期行事
予定
催事には会員に限らずご参加できます。
ご希望の方は国文科会へご連絡ください。



■総会4月21日(土)
於: 実践校友会館

■記念講演会(総会後)

講演予定 実践女子大学国文学科 山内博之教授

「日本語の不思議、日本語の魅力 外国人から見た日本語」

■寄り道文学散歩 6月7日(木)
浅草浅草寺境内・隅田公園内石碑めぐり

■会誌「りんどう」発送9月9日(日)
ー以上は終了ー

■文学散歩「万葉をめぐんだ風土」を訪ねる旅

11月7・8日予定(1泊2日)
富山県高岡万葉歴史館・工芸の町並み散策

■一葉景参加 11月23日 台東区立一葉記念館

講演 朗読会

■新年会 平成31年1月27日(日)

■能・狂言鑑賞会 国立能楽堂 3月9日(土)

※なお、詳細については「りんどう」又はホームページに掲載

連絡先: 実践校友会 実践国文科会

実践英文科会

科会長:山内 典子

6月3日(日) 第42回総会が開催されました。

今年度の事業計画などが承認され、新年度がスタート致しました。

総会後の講演会は、津田塾大学国際関係学科教授の木村明子先生に、「東日本大震災について文学が考えたこと」と題して講演していた

いただきました。英文学とは関係のない講演というところで、他科会の皆様も参加してくださいました。東日本震災について再確認するとともに、文学との関係性などを興味深く考えた時間を過ごしました。

また、今年度も昨年に続き秋のバス見学会を予定しています。皆さんの参加をお待ちしています。

☆会報誌について

年一回発行(9月) 講演会の様子、見学会や新年会の様子などを会員の皆さんへ情報としてお送りしています。会員の親睦を図るとともに、会員の輪の広がりにつながればと思っています。



■年間行事

☆会報誌: 「英文科会だより2018」

9月発行

☆ときわ祭バザーに協力

日時: 10月27日(土)、28日(日)

☆見学会 バス見学会…箱根ポー美術館・箱根湿生花園

日時: 11月7日(水)

☆新年会: 平成31年1月20日(日)

会場: 東京駅ステーションホテル、フランス料理「ブランルージュ」

☆常設勉強会: 於実践校友会館

輪読会A: 第2・第4金曜日 10:30～12:30

輪読会B: 第1・第3金曜日 10:30～12:30

連絡先: TEL&FAX 045-862-3744 (山内典子)



実践生活文化科会

科会長:北村 はるか

生活文化科会が設立し、約2年半が経ちました。実践校友会、各科会、各支部の皆様よりご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。



昨年度2月には、科会誌第2号を発行し、第2号より、科会誌タイトルを「ゆりかご」と名付けさせていただきました。

実践女子学園の創立者である下田歌子先生は、本学園設立にあたり記した「帝國婦人協会主旨」(1898年)において、アメリカの詩人、ウィリアム・ロス・ウォレス (William Ross Wallace 1819-1881年) のことばを引いて、学校設立の意義や自らの大志を広く世に問いました。「播種」をゆらす手、すなわち、女性こそが「天下」を動かすことができるということです。

「まことに播種を揺がすの手は、以て能く天下を動かすことを得べし。」(「帝國婦人協会設立主意書」、1898)

「(一般階級に属する女性の) 揺りかごを揺らす手こそが、社会を変革する力となります。」

この御言葉にある「ゆりかご」を、生活文化科会誌のタイトルとして、使わせていただきました。 私たちはこのメッセージを、女性のしなやかな手には、社会を動かせる力があるのよ、と下田歌子先生が私たちの背中を押して下さっていると感じております。

今年度は、平成20年度に実践女子大学を退職されました「松田義幸先生を囲む会」を開催、次年度以降も、卒業生の皆様にご参加いただける催し物の企画を予定しております。お子様連れのご参加も大歓迎でございますので、お気軽にご参加ください。

ご卒業後、ご連絡先が不明な卒業生の皆様が多数いらっしゃいます。ぜひ一人でも多くの方に、科会のお知らせや会報誌などをお届けしたいと考えております。Facebookにも情報を載せております。会報誌や同窓会、イベントのご案内が届かない卒業生の皆様、ぜひご友人同士をお声がけいただき、生活文化科会までお問い合わせください。

問合先: jj.seibun.og@gmail.com
Facebook: https://m.facebook.com/profile.php?id=100009369324879

「技芸科会」活動終了のお知らせ

実践技芸科会会長 中岡 久恵

この度技芸科会では、会員の高齢化に鑑み、残念ながら科会としての活動を終了させていただきますことをご報告申し上げます。

技芸科会だより最終号は
実践校会ホームページで公開中



技芸科会だより創刊時の戸野原須賀子先生が、昨年の4月29日に101歳で逝去されてから1年が経ちます。50年の節目にもあたり、科会としての役割も閉じる事になりました。当時の技芸科会員のご苦勞に思いを馳せながら順次引き継いでここまで参りましたこと、感慨無量でございます。

皆様方の今日までの暖かいご支援とご厚情にあらためて深く感謝申し上げます。

技芸科会の科会としての活動は終わりにになりましたも手芸教室は校会会館にて続いております。どうぞご参加ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

また、専門学校から続く技芸科卒業生の誇りと伝統は技芸・被服系として引き継がれております。故戸野原先生が仰っていたように、時代の変革の中でも柔軟に卒業生の特性を活かした活動が継続されることを望んでおります。

学園と校会の更なる発展を祈念いたしますとともに、今後とも同窓生の集う場所である実践校会を皆様とともに応援して参る所存でございます。

(なかおか ひさえ)

実践校会理事長 鈴掛まゆみ

主体となる技芸科会の卒業生は、昭和20年が最後となりますが、今回の科会活動を閉じるにあたっては、科会長の中岡久恵様はじめ、昭和19年、20年の卒業生が足繁く実践校会会館に通われ、技芸科会の自負心と気概を私たち後輩に伝えてくださいました。そんな中、昨年4月に逝去された戸野原須賀子様は、実践女子学園と実践校会に多額のご遺贈を残されま

した。ひとえに下田歌子先生を敬愛し続けていらした故であり、下田先生の志を引き継ぐ姿に感銘を禁じ得ません。

下田先生の教えを直に受けた最後の一世代でもあり、先生の人となりについて後輩に語り継いで来られた姿は、学園発行の記念ビデオにも残されています。

戸野原様はまた、実践校会の第8代理事長でもありました。同窓会の初代理事長は、学園創立の2年後に下田先生が自ら就任されました。2021年には、同窓会としても120周年を迎えます。記念日目前にての古くから続く技芸科会の活動終了は大変残念ですが、先輩方から私たち後輩に引き継がれていく同窓会をどうぞ見守り、ご指導ご支援を続けてくださいますようお願いしております。長い間ありがとうございました。

(すずかけ まゆみ)

技芸科会お別れパーティ開催

6月11日(月)は台風直撃の中、無事に技芸科会お別れパーティを開催できましたので報告いたします。技芸科会の会員も少なくなりましたが、実践校会、各科会より40名のご出席を賜り、おかげさまで華やいとお別れパーティになりましたこと、一同感謝申し上げます。

先達の築いた軌跡を振り返りながら引き継いできた道のりですが、校会のお仲間を支えられ、今日まで至りました。あらためまして感謝申し上げますとともに、実践校会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

(技芸科会だより 編集者一同)



“英文科会の講演会を終えて”

英文科会の講演は、6月3日(日)の総会後に校会館にて行われました。

今年度の講演会の講師は、英文科の先生ではなく、他大学のしかも英文科ではない先生に依頼しました。そこに行きつくまでの流れは、会員の植松さんより次のようなお話があったからです。

『昨年5月、イギリスより一時帰国した娘は、EJJS 2017リスボン大会の論文発表の準備とともに、Oxford 大学から紹介された木村朗子先生の論文の英訳に、毎日取り組んでおりました。その木村先生の論文が、震災後の文学という、とても興味ある意味深い内容だと、私に話してくれました。是非ともその木村先生の講演を聴いてみたいと思い、科会長に相談の上、講演の可能性をお伺いしました。先生から講演会の講師の快諾をいただき、講演会の準備をお願いしました。』



【講演内容】

2011年の東日本大震災から7年が経った。この震災は日本だけではなく世界にインパクトを与え、文学、映画、美術など多様な分野で作品を生み出している。そうした作品は東日本大震災をどのように捉え、表現してきたのか。言論統制の空気の中でタブーに挑戦する文学が興っている。それが震災後文学であると定義をし、いろいろな作品を紹介しながら、震災後文学論の現状が展開された。読み手の存在の有無にも言及し、被災地から遠く離れた地域や海外からの注目度が高く、読者からの作品への期待感にも触れた。

【講演会に参加して思うこと】

もっともっと聴いていたい、終わるのが惜しいと思わせる素晴らしいものでした。講演が終わった時の会場の、ため息とつかない響めきは、今でも忘れられません。(C.U)

学生相手に抗議する傍から、国内外との交流、本の執筆と幅広くエネルギーに活動している様子が、ことばの端々から見て取れました。もっと知りたくなり、先生の最新刊を求めました。ゆっくり読もうと思います。(S.H)

あの経験したことのない大震災が文学に影響を与えていたとは考えもしなかった。今、あの震災の悲劇に被災者のみならず日本人がどのように向き合っているかを語る作品を、読んでみたくなりました。(T.Y)

実践キャリアネット

15周年を迎えさらなる発展を!!

設立15周年を迎えた実践キャリアネットの総会・講演会・懇親会が6月23日(土) 渋谷区東REIホテルにて開催されました。

総会では2017年度の活動報告・会計報告、2018年度の活動計画・会計予算が承認されました。司会を務められた事務局長の野中裕子様が退任されるため、新事務局長の高橋路奈様、新委員の稲垣厚子様、岩佐真佐子様、小谷庸子様、油井恵子様が紹介されました。実践キャリアネットの皆様方の活動に対する熱意がさらなる発展を期する会となりました。

講演会では、実践女子学園理事・短期大学学部長の高瀬真理子氏が「実践短期大学の学生から母校へ―勤続25年を越

えて思うこと―」と題してお話くださいました。恩師板垣弘子先生との出会いが今のキャリアに繋がったこと、いかなる時でも前向きに取り組む姿勢や活力・活気あふれる生き方が印象に残りました。

次に「学園の今」のコーナーとして実践女子学園理事・学長室部長の上原信幸氏より学園のEM(エンrollment・マネジメント)についての説明がありました。EMとは入学から卒業まで一貫してサポートする総合的な学生支援策です。学生一人一人の個性を大切にしながら新たな学生支援制度の導入がスタートします。

懇親会は15年を振り返って、食事を楽しみ、会話を楽しみ和気あいあい、和やかな会となりました。最後に、実践キャリアネット発起人で国文科会会長の若松幸子様から鈴木政子著作『語らなかつた女たち 引揚者・70年の歩み』という本の紹介がありました。この本については平成30年4月発行の那竹82号に掲載を予定していますのでどうぞご覧下さい。



平成30年度 実践桜会奨学生

平成30年度選考委員会（選考委員は各役員選出母体から推薦された5名と理事長、常任理事5名、計11名で構成）を3月に発足、ホームページでの一般公募と、昨年応募のあった大学にも募集をいたしました。今年度の応募者は留学生50名（内訳：40大学院・10大学・7か国）でした。第一次書類選考と第二次面接選考を行い、本年度の実践桜会国際交流基金奨学生は大学院生2名に決定しました。



■ 李 栞源 イ チュウォン
大韓民国
早稲田大学大学院
アジア太平洋研究科
修士2年

高校生の時、日韓関係を含む東北アジア政治学へ興味を持ち、日本での留学を決めました。独学で日本語を勉強し、早稲田大学の国際教養学部へ応募、合格しました。自由な環境の中でたくさんの友達

と先生、そして学問に出会えました。留学生として他国で住みながら段々とアイデンティティー問題に関心を持つようになり、修士研究として日本と韓国の間を生きる在日コリアンの多様な国籍と戸籍について研究しています。私の研究のフォーカスは事実上無国籍者である「朝鮮籍者」です。この研究を通し、日本のマイノリティーのアイデンティティー研究に貢献したいです。

修士学位取得後は、現在インタンとして働いている UNHCRでの経験を生かし、国際機関で無国籍者と難民をサポートできる仕事に勤めたいです。韓国を拠点とし、自分が日本で学んだ知識を使ってアドボカシー活動をするのが目標です。「どう助けるか」ではなく、「どう一緒に生きていくか」というアプローチで世界を見て、その価値観を色んな人と共有したいです。



■ 周 源 シュウ ゲン
中国
東京外国語大学
総合国際学研究科
国際日本専攻
博士前期課程2年

私は高校時代に日本語と日本文化に深い興味を持っていたので、大学に進学した時は日本語を専攻として選びました。その時から将来

日中両国の文化交流に何かをしたいと決心して日本語教師になりたいと思いました。中国の大学を卒業した後、やはり実際に日本の土地を踏んで、日本での生活を体験しながら、その言語、文化を学びたかったのです。日本に留学することになりました。

今は日本語教育の「理論」から「実践」まで系統的に学習できる東京外国語大学で日本語学や日本語教育学を勉強して充実した日々を過ごしています。修士号取得後は博士号を目指して博士後期課程に進んで、将来は帰国して日本語教師になり、「道を伝へ業を授け感ひを解く」という夢を実現させ、日中両国の友好のために自分のささやかな力を捧げたい。

「実践桜会奨学金」は実践女子学園生の公募者の中から、本年度は大学生1名と高校生1名に決定しました。



■ 樋口 純子
実践女子大学文学部
国文科3年

私は、来年度から始まるゼミで、伊勢物語が描かれた絵、伊勢絵の研究をする。美術館に足を運ぶ中で、物語絵に興味をもち、古典

創業者下田歌子先生は、女子教育を通して近代女性の地位向上に尽力するとともに、歌人、国文学者、家政学者、社会事業家としても業績を残しています。1901年から清国の留学生を受け入れ、1905年には後に革命烈士として名を遺した秋瑾女子も留学しています。

「実践桜会国際交流基金」は、当会会員の西山美穂子（旧姓高田・昭和3年実践女学校専門学部英文科卒）から「第二次大戦

奨学生との交流会を平成30年9月29日（土）と平成31年3月2日（土）の2回開催いたします。
参加ご希望の方は実践桜会にお申込みください。

の体験を踏まえ、東アジアから日本に留学を希望する女性のために役立ててほしい」という強い要望を添えて遺贈された基金に基づき、1994年に創設されました。

2004年からは当会会員の成田迪子（昭和28年実践女子大学英文科卒実践女子大学名誉教授）から遺贈された基金を合わせて運営され、今年で24回目となります。

下田歌子先生法要 「香雪忌」報告 ～岩村に行ってきました～

実践女子学園では、毎年6月に昭和11年10月8日に83歳でお亡くなりになりました創立者の下田歌子先生の法要を行っております。

学祖生誕地・岐阜県恵那市岩村町において、下田歌子先生の法要と下田家・平尾家への墓参を行い、また、実践女子学園と恵那市の方々との親交を深める機会にもなっています。

平成30年は6月16日（土）に日野をバスにて出発し、実践桜会からも鈴掛理事長はじめ、総務部常任理事、広報部常任理事の三名が参加いたしましたのでご報告いたします。

一行25名が岩村町に到着後、「香雪忌」が行われる隆崇院（りゅうそういん）本堂にて着席、桂住職により法要が始まりました。誦経・焼香等が滞りなく進み、途中、実践女子学園井原理事長より下田先生に、



奉報

事業報告・学園近況等の奉報（ほうほう）がありました。

念仏一会、三唱礼等が続き、無事法要は終了し、本堂前で記念撮影後、再びバスで墓所に向かいました。

今回の法要には、実践桜会の岐阜支部長もお車で合流してくださり、しばし歓談することもできました。現地にて同窓生とお目にかかれるのはうれしい事です。

さらに、うれしい出会いがもう一つありました。地元の恵那市岩邑中学校の2年生女子が、お母様と



下田歌子説明文



勉学の家



下田歌子像

ともに墓参に訪れてくださいました。お話を伺ったところ、小学6年生の時の「下田歌子賞」受賞をきっかけに岩村出身の下田歌子先生に関心を持ち詳しく調べようと思い立ち、この夏の研究課題にされた

そうです。
ご自身の将来の目標も教育者と仰っていました。
下田先生の蒔かれた種が大きく育つように桜会一同願っています。



墓所①



墓所②



岐阜支部長と

新潟新発田二宮家 バラ園訪問記

昭和39年／大英卒 藤谷 文子

22号なよたけ情報版にも掲載された、新潟県聖籠町の下田歌子先生と深いゆかりのある二宮家訪問が、英文科会有志主催でバラの一番良い時期の5月末に実現の運びとなった。37年短大英文卒の前理事長浦上さんと濱さんが二宮夫人と同期ということで、今回はバラの最盛期にバラを愛でること、二宮家ご当主であるご主人から二宮家と下田歌子先生との関わりについて講話をうかがうというのがメインテーマであった。13人の女性を前に講話するというのでご主人が前日予習なさって、「相当ナーバスになっていましたよ」と話される奥様の表情がとても微笑ましく感じられた。

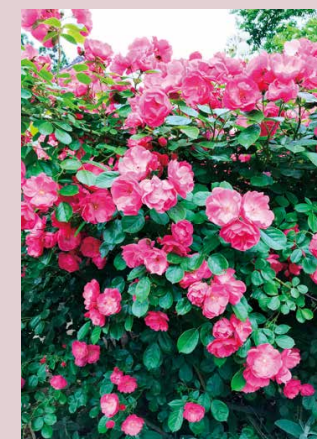
まず、二宮夫人が30年以上にわたり丹精込めて作り上げたバラ園を散策。バラの花の色とりどりの数々に、皆歓声を上げながらそぞろ歩きを楽しんだ。なんとそのバラ園は元々はご家族、使用人のための洗濯物干し場だったとか。お義父様をどう説得なさってこの素晴らしいバラ園が完成したのかはご主人様の協力大だったと想像がつく。庭のそここ



こにバラソルと椅子が用意され、みなバラの香りを感じながらゆったりと飲み物いただき歓談した。なまこ壁の蔵が何棟も続いているのも圧巻であった。

次に迎賓館の“蓮池堂”にお邪魔してご当主二宮正光氏のお話である。

“二宮庭園（静勝園）の歴史と現状”という表題で庭の図面入りのパンフレットを作っての説明で、8,000坪が弁天潟という湖のような池、その弁天潟を借景に母屋と蓮池堂が3,000坪の敷地に建てられているとのこと。歴史のところで幕末、新発田藩の藩主は朝廷側につきその折二宮家は3,000両用立てさせられ、その見返りに藩主から藩の庭師を遣わされ作庭が始まったとのこと、その後も余裕があったので石



や灯籠が増え格式の高い庭になっていったとのこと、珍しい亀甲竹、枯山水、涼亭等々のしつらえがあった。

メインテーマの“下田歌子先生との関わり”として祖父孝順氏の備忘録から和歌の数々を抜粋して書き写しを用意してくださっていた。

明治32年、下田歌子先生が愛国婦人会設立の運動に來られた折に蓮池堂に長逗留され、そこから池やお庭を眺め、二宮家の温かいおもてなしにゆっくりくつろがれて多くの和歌を書かれたのだらうと想像したのは私だけではないだろう。

この日のためにとお蔵からたくさん短冊、色紙を出して机の上に並べてくださっていた。その数の多さに皆びっくりしてしまった。

飾られていた扁額は筆致が力強く、豊かで若さ漲る歌子先生のお姿が想像できた。

目をつぶると下田歌子先生とともに一夜の夢に浸れた新潟の旅であった。

二宮ぬしのみもとにて
岩かげに かさなるこけの
色みても へにけん千代を
思ひこそやれ

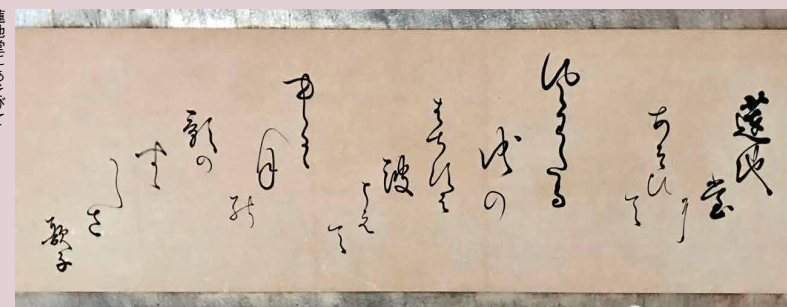
歌子

二宮ぬしかりやどりしけるゆうべ
さざ波に 綾織る雨は
池の面の うきもをよきて
ふるかとぞ見る

歌子

蓮池堂にあそびて
風わたる 池のはらす葉 波こえて
ゆるるる月の 影のすずしさ

歌子



学祖祭

平成30年10月6日（土）
本年度は、10月8日の下田歌子先生のご命日が、祝日のため、6日の土曜日に開催いたします。
実践校友会会館に祭壇を設置いたしますので、気軽にお参りにお越しください。
実践校友会が所蔵する下田先生ゆかりの品も展示する予定です。



実践校友会バザー開催

日時：平成30年10月27日（土）28日（日）
9:30～15:30
会場：実践女子学園中学校高等学校内
全国各支部からの物産品、科会・会員の手作り品や寄贈品、学祖下田歌子先生生誕の地「恵那市岩村」の特産品、各種弁当、その他掘り出しものを多く取り揃えています。
皆様、お誘いあわせの上、ご来場ください。（当日は購入品の宅急便も利用可能）
＊寄贈品ご提供のお願い：10月20日（土）まで受付けます。
＊鮮度を要する食品は10月26日（金）まで受け付けます。
〒150-0011 東京都渋谷区東1-1-4実践校友会文化部宛
TEL：03-3407-7459 FAX：03-3499-0835

初春歌舞伎観劇会

日時：平成31年1月13日（日）
会場：国立劇場大劇場
毎年沢山の観劇を有り難うございます。
今年もご家族ご友人お誘いあわせて、ご参加下さい。
チケット代1万1千円（含お弁当、解説イヤホン付）
お問い合わせ・お申し込みは実践校友会事務局へ
TEL：03-3407-7459 FAX：03-3499-0835

会費納入のお願い

一般社団法人教育文化振興実践校友会の運営・活動は皆様の会費によって支えられています。
会費未納の方は、振込用紙にてゆうちょ銀行および実践校友会本部窓口でご納入をお願いいたします。
また、下記の銀行振り込みもご利用いただけます。
年会費2,000円
みずほ銀行 渋谷中央支店（162）
口座番号 普通 1189795
「一般社団法人教育文化振興実践校友会」
なお、ゆうちょ振込用紙がない場合は、実践校友会会館までご連絡ください。
TEL：03-3407-7459 FAX：03-3499-0835
会費納入状況のお問い合わせもお受けいたします。
※いずれの振込にも会員番号のご記入をお願いいたします。

実践校友会会館利用サークルのご案内

サークル名	活動曜日	主な内容
アトリエ染花	第1日曜日	工芸・飾り花
編み物の会	第3金曜日	工芸・編み物
実践校友会囲碁教室	第2・4月曜日	囲碁
英文輪読会 A	第2・4金曜日	英文学
英文輪読会 B	第1・3金曜日	英文学
実践絵手紙の会	第3日曜日	絵手紙
かえて（楓）会	第2火曜日	染色
桂泉会	月2回土曜日	華道古流
香友会	不定期	香道
桜書道教室	月2回土曜日	芸術・書道
下田歌子先生の著作を読む会	第3日曜日	研究会・下田先生を広く知る
童の会	不定期	文学・児童の研究と創作
十八の会	不定期	懇親会
ハーダンガーの会	第2木曜日	工芸・ハーダンガー刺繍
北欧刺繍に親しむ	不定期	北欧刺繍
マンドリンクラブ OG 会	不定期	音楽・マンドリン
実香会	第3土曜日	香道
日本ギヤスケル協会	第1又は第3日曜日(不定期)	ギヤスケルの研究
日本バーナードショー協会	不定期	バーナードショーの研究
北欧クロスステッチ	不定期	北欧刺繍
JJF 総会	不定期	親睦・学業・芸術の発展と交流のため
青派会	不定期	山岳部 OB 会
ハワイアンスクール	第1・3火曜日	健康フラとウクレレ
能を楽しむ	不定期	謡い
紹ざしの会	第2火曜日	伝統工芸刺繍による小物作り

2018.7 現在／お問合せは校友会事務局へ

ホームページに掲載する投稿記事や写真をお寄せ下さい。
広報部メールアドレス:jissen-sakura-koho@dance.ocn.ne.jp

実践女子大学・同短期大学部 ホームカミングデー

卒業生と元教職員の皆様を対象とした「実践女子大学・同短期大学部ホームカミングデー」を開催いたします。
この機会にキャンパスへ足をお運びいただき、同窓生や教職員との交流で親睦を深めてください。
開催日：平成30年10月14日（日）
場所：渋谷キャンパス創立120周年記念館
講演会：14：30～（6階 601講義室）
講師 谷村志穂氏（作家）
懇親会：16：00～（9階 カフェテリア）
※イベントの詳細はホームページをご確認ください。

向田邦子文庫展示室

- 語り継がれる向田邦子（2）「食」を愉しむ人
期 間：2018年7月30日（月）～11月24日（土）
開室時間：9：00～17：00
展示内容：食べることも料理することも好きだった向田邦子。食へのこだわりに関する雑誌記事や図書等をご紹介します。
 - 向田邦子の蔵書より（2）旅
期 間：2018年12月3日（月）～2019年3月23日（土）
開室時間：9：00～17：00
展示内容：旧蔵書からうかがえる、旅先への興味や思いを探ります。旅行ガイド本、語学習本、その国の歴史・文化に関連する資料を蔵書の中から紹介します。
- ＊休日：日曜日、祝日、大学の休校日（夏期一斉休校日、年末年始休校日）
詳細はホームページ（<http://jissen.ac.jp/library/>）をご確認ください。

香雪記念資料館

野口小嶺一女性南画家の近代一
会 期：2018年10月8日（月・祝）～12月1日（土）
休 館 日：日曜日（ただし10月14日、21日は開館）、11月5日（月・展示替えのため）
開館時間：10：00～17：00
入 館 料：無料
会 場：実践女子大学香雪記念資料館 企画展示室1・2、下田歌子記念室
主 催：実践女子大学香雪記念資料館

関連事業 特別講演会

日 時：2018年11月17日（土） 午後2時
会 場：実践女子大学渋谷キャンパス501教室
発 表 者：古田 亮 先生（東京藝術大学美術館准教授）
平林 彰 先生（山梨県立美術館学芸員）
山盛弥生（実践女子大学香雪記念資料館客員研究員）

公開市民講座

- ＜渋谷キャンパス＞
- 文学部国文学科：京都をめぐる文学 平成31年2月
- 文学部英文学科：オリンピックとパラリンピックはどのように作られたかーさまざまな人たちの挑戦
10月14日（日） 12：30～14：00 ※常磐祭期間中
- 短期大学部日本語コミュニケーション学科：香、満ちました
11月3日（土）13：30～16：00
- ＜日野キャンパス＞
- 生活科学部食生活科学科："食生活を科学する 加工食品の温故知新"
10月6日（土）13：30～16：00
- 生活科学部生活環境学科：地域の魅力をどう作るかー海外の事例を通してー
10月20日（土）3限 13：15～14：45
- 生活科学部生活文化学科："安心できる子どもの暮らしーこれからの児童教育を考えるー"
10月25日（木）13：15～15：30（キャンパス案内等含）
- 生活科学部現代生活学科："今、若者は"地域"に何を感じるのかー多世代をつなぐこれからの地域づくりのためにー"
11月24日（土）13：30～15：30

下田歌子研究所新刊紹介

新編下田歌子著作集『女子の心得』
（新編下田歌子著作集の3冊目となる出版）
一現在も日々の生活に役立つ心の整え方とそれを実践するための作法を懇切に示す。明治期の礼法書として、最高峰の資料。一

監 修：実践女子大学 下田歌子研究所 ※
著 者：下田歌子
校 注：湯浅 茂雄
（実践女子大学下田歌子研究所）
出 版 社：株式会社女性 三元社
※現在は「下田歌子記念総合研究所」



平成 29 年度事業報告

【総務部】

- 1) 定時総会開催（5月21日）
- 2) 理事会開催（12回）、臨時理事会（1回）、常任理事会（12回）開催
- 3) 秋季運営委員会開催（9月30日）
- 4) 学祖祭（護国寺墓参、実践校友会館祭壇設置、中高香雪記念室祭壇礼拝）、お供え香（9時～実香会）（10月7日）
- 5) 入学、卒業祝い記念品の贈呈（4月、3月）
- 6) 支部、系列科会への助成事業（46団体）
- 7) 大学・短期大学部「常磐祭」に参加
渋谷（10月14日、15日）、日野（11月11日、12日）
- 8) 祝・成人の会（実践女子学園／実践校友会共催 ときわ会協賛）（1月8日）
- 9) その他学園の懇親会等行事に参加
- 10) コンピューターによる名簿管理
- 11) 会員サービス事業の推進（北陸三支部との懇談会）（11月26日）
- 12) 実践校友会会館・日野分室（本館541号室）の管理

【事業部】

- 1) 母校教育助成事業（助成金・学園助成）
- 2) 大学・短期大学部「常磐祭」に協賛金贈呈・校友会賞授与
- 3) 社会活動助成事業（18団体）
- 4) 実践校友会奨学基金事業（学園高校生1名 実践女子大学大学院生2名 各30万円給付）
- 5) 実践校友会国際交流基金事業（中国2名 モンゴル1名 トルコ1名 各48万円給付）
- 6) 生涯学習（図書・教室等の管理）
教室：ハーダンガー刺繍教室、囲碁教室
図書：貸出・購入・整備
- 7) 結婚相談（原則 毎月第2、第4土曜日）
- 8) 法律相談（原則 毎月第2水曜日 11時～16時）
- 9) 会館貸室事業

平成 29 年度会館利用状況

（平成 30 年 4 月 2 日現在）

月	件数	人数
4	35	333
5	29	285
6	33	438
7	24	209
8	10	78
9	34	438
10	30	251
11	34	367
12	22	150
1	30	263
2	30	282
3	37	449

合計 348 件 3543 名

【文化部】

- 1) 実践校友会バス旅行（栃木県足利方面）
平成29年7月12日（水）
- 2) 実践校友会バザー開催（於：中高ときわ祭）
平成29年10月28日（土）、29日（日）
- 3) 初春歌舞伎観劇会開催（於：国立劇場）
平成30年1月14日（日）
- 4) 母校記念品販売取扱い

【広報部】

- 1) 「那与竹」第80号発行（平成29年4月1日）
- 2) 「なよたけ情報版」第23号発行（平成29年10月1日）
- 3) 媒体を中心とした地域レポート交流
山梨支部・福島支部・北陸3支部（石川・富山・福井）
- 4) 実践校友会公式ホームページの管理・運営
- 5) 「那与竹」第81号の編集

【実践キャリアネット】

- 1) 運営委員会開催
- 2) 総会・講演会・茶話会（平成29年6月17日（土））
講師：間瀬英世氏（卒業生・KDDI株式会社 人事部D&I推進室室長）
- 3) 会員交流会（平成29年11月18日（土））
- 4) 第1回セミナー（平成30年1月20日（土））
講師：富田ゆか氏（卒業生・Stillaアロマテラピース クールアンドサロン主宰）
- 5) 卒業生と在校生との交流会～OG懇親会～
平成30年2月15日（木）（於：渋谷）、21日（水）（於：日野）
- 6) 卒業生のための仕事についての何でも相談会・交流会（毎月第4土曜日）
（8月、12月は休み）

秋田先生の法律相談

校友会員の皆さまを対象に、弁護士として豊富な経験と実績をもつ秋田瑞枝氏（同窓生）による法律相談です。毎月1回、実践校友会会館で行いますので、身の回りの諸事お困りごとをお気軽にご相談ください。秘密厳守をお約束します。

〔相談室〕

1. 月1回、第2水曜日11時～16時

2. 相談時間1回30分

3. 休室 祝日・8月

〔会場〕実践校友会会館（渋谷）

〔申込方法〕

1. 事前に電話で予約してください（先着順）

2. 関係資料などは相談時にご持参ください



プロフィール ●昭和40年実践女子学園高等学校を卒業後、慶應義塾大学法学部法律学科に進学。在学中に司法試験第2次試験に合格、昭和54年港総合法律事務所（東京港区）開設、平成9年ひのき総合法律事務所開設

財務報告

貸借対照表

平成30年3月31日現在

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産	68,467,416	16,477,417	51,989,999
2 固定資産	226,194,473	231,474,587	△ 5,280,114
(1) 基本財産	27,966,601	27,966,601	0
(2) 特定資産	58,990,000	61,887,231	△ 2,897,231
(3) その他固定資産	139,237,872	141,620,755	△ 2,382,883
資産合計	294,661,889	247,952,004	46,709,885
II 負債の部			
1 流動負債	7,990,069	7,705,117	284,952
2 固定負債	59,250,000	58,157,231	1,092,769
負債合計	67,240,069	65,862,348	1,377,721
III 正味財産の部			
1 指定正味財産	86,956,601	89,776,601	△ 2,820,000
2 一般正味財産	140,465,219	92,313,055	48,152,164
正味財産合計	227,421,820	182,089,656	45,332,164
負債及び正味財産合計	294,661,889	247,952,004	46,709,885

正味財産増減計算書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増減額
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	84,395,876	33,697,081	50,698,795
(2) 経常費用			
事業費	25,436,389	28,094,593	△ 2,658,204
管理費	10,807,323	11,000,937	△ 193,614
経常費用計	36,243,712	39,095,530	△ 2,851,818
当期経常増減額	48,152,164	△ 5,398,449	53,550,613
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	48,152,164	△ 5,398,449	53,550,613
一般正味財産期首残高	92,313,055	97,711,504	△ 5,398,449
一般正味財産期末残高	140,465,219	92,313,055	48,152,164
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	△ 2,820,000	△ 2,340,000	△ 480,000
指定正味財産期首残高	89,776,601	92,116,601	△ 2,340,000
指定正味財産期末残高	86,956,601	89,776,601	△ 2,820,000
III 正味財産期末残高	227,421,820	182,089,656	45,332,164

告 知 板

♥結婚相談室♥

相 談 日：原則として毎月第2、第4土曜日・10:30～16:00

(10月第2土曜日は相談日が変更になる場合があります。)

休 室：8月第2土曜日、12月第4土曜日

会 場：実践桜会会館

入会資格：本校卒業生及び卒業生のご紹介の心身共に健康な男女

入 会 金：2万円、書類代：1千円

入会時に持参するもの：入会ご希望の本人直筆の履歴書
写真5枚(本人のみ、スナップ可)

☆秘密厳守で評判の良い相談室です。

☆詳細は相談日にお問い合わせください。

連 絡 先：TEL 03-3407-7459 (実践桜会会館)

実践桜会囲碁教室

教室では、アマ6段の柳川さんのご指導のもと、卒業生と近隣の方々々と和気あいあいと楽しく学んでいます。はじめての方もいつでも歓迎します。

[開室] 原則として第2・第4月曜日 13:00～16:00

[教室の開室予定日10月～3月] 赤字は自由対局

2018年	10月	15	29
	11月	12	26
	12月	3	17
2019年	1月	14	28
	2月	11	18 25
	3月	11	25

[会場] 実践桜会会館1階

[会費] 一回 1,000円 (自由対局 500円)

[講師] 柳川正興 (アマ6段)

自由対局 10:30～16:00

卒業生の川村麻紗子さん (アマ5段) の指導があります。

[連絡先] 実践桜会事務 電話03-3407-7459



教室風景1



教室風景2



夏の間碁交流会8月20日

今年も、実践女子大学・同短期大学部の渋谷キャンパス常磐祭(10月13～14日)に「囲碁と源氏物語」をテーマにして参加します。10/13 11:00～11:30 50A教室で実践女子大学教授文芸資料研究所の上野英子氏による「源氏物語の中の囲碁の風景」の講演を行います。お気軽にお立ち寄りください。

なお、囲碁交流会などのイベントは、実践桜会HPでもご案内いたします。夏の囲碁交流会は、8月20日に実施いたしました。

実践桜会会館・貸室のご案内

明るい桜会館を、クラス会、サークル活動、各種打合せ等にお気軽にご利用ください。壁の一面が鏡のお部屋もございます。

詳細は、実践桜会事務局 (TEL 03-3407-7459) へお問い合わせください。

【編集後記】

●今年度の部員全員が広報部は初めてで、慣れない会報誌の編集作業を始めました。まずは情報発信のホームページ更新作業を四苦八苦しながらスタートいたしました。この夏は、史上類を見ない異常な暑さが続き、そんな折に西日本豪雨があり、各地に甚大な災害をもたらしました。報道の度に実践桜会の支部に安否確認するなかで、同窓生にも被災された方がいることもわかりました。国内だけでも、北海道から沖縄まで同窓生の繋がりがあり、情報をお届けする立場の責任も強く感じました。

8月も半ばですが列島中心に暑さが停滞し、むしろ沖縄に35℃超えの猛暑日がいまだ無いという事態です。被災地のご苦勞がしのべれます。復興を心よりお祈りいたします。

来年は、学園の創立120周年、実践桜会もその2年後に120周年を迎えます。大勢の同窓生のお手元に会報誌が無事に届きますように、願っています。ご覧いただけたら幸いです。(広報部一同)

【寄附者ご芳名】(敬称略)

H30.4.1～H30.8.3現在

旧浜松支部、鈴木昭子、折原佐和子、鈴木瑞季、石黒弘子、吉田眞理、鈴掛まゆみ、篠田俊子、みよし会 (家政学部生活科Cクラス34年卒) 佐藤順子

編集・発行：一般社団法人教育文化振興 実践桜会

編集・発行人：鈴掛まゆみ

〒150-0011 東京都渋谷区東1-1-40

TEL: 03-3407-7459 FAX: 03-3499-0835

URL: <http://www.j-sakura.org>

広報部メールアドレス: jissen-sakura-koho@dance.ocn.ne.jp

振込口座：東京00190-0-2384

転居された場合はご連絡ください。

印刷：株式会社ローヤル企画

会費納入のお願い

実践桜会は皆さまの会費で運営されています。年会費2,000円の納入をよろしくお願いします。

転居・改姓等をされた方及び会費のコンビニ入金をされる方で住所変更もある場合は、会員番号をご確認の上、実践桜会事務局 (TEL: 03-3407-7459, FAX: 03-3499-0835) までご連絡ください。